京城日報
十九日夕刊
定價 本紙一部金五錢 一ヶ月金六拾五錢
廣告料 ▲五號活字一行金七拾錢
發行兼編輯人 奧田直毅
印刷人 小川三之介
發行所 京城太平通一丁目 合資會社 京城日報社

○濰縣開城と政府の否認

濰縣開城契約は十六日調印し二十三日迄支那兵武裝の儘撤退のことゝなり妥協條件中の張師團長を北伐軍司令官たらしむる件のみは拒絕せりと北京政府は開城を否認し斷然討伐せしむるに決せりとあれば開城監視中の革軍との間に戰爭あるべしと(北京特電)

○長沙戰鬪の損害

長沙に於ける戰鬪の結果非戰鬪員十八名兵士四十名即死せり外に四十二名の負傷者ありたり(上海電報)

○兩西獨立に傾く

陝西山西の兩省は雲貴軍と聯絡成り輿論は漸次獨立宣布に傾き來れりと(東京電報)

○三國財團の承認

英佛露三國財團は支那兌換停止問題救濟の必要を承認せり(東京電報)

○兩地恐慌沈靜

上海芝罘兩地に於ける中國交通兩銀行兌換停止恐慌は各支店に於て機宜の處置を失はざりし結果漸く沈靜に歸せり(北京電報)

○獨帝暗殺計畫發覺

コッペンバーゲン來電に依れば獨逸皇帝及び皇太子暗殺計畫發覺せり此の計畫は平和論者の企てたるものにして多數の平和論者拘引されたりと(浦鹽電報)

○獨逸聯邦新稅に反對す

アムステルダム來電に依れば獨逸藏相ヘルフエリッヒ氏主宰の下に獨逸聯邦會議あり軍費に應ずる爲新稅を起す權を議題として討論する處あり藏相は聯邦をして獨逸帝國の戰費を支出せしめんとする新提案をなしたるに聯邦は之れに反對の意を表せり(倫敦電報)

○潛航艇戰中止の勸告 羅馬法皇對獨逸

倫敦來電に依れば外相グレー卿は羅馬法皇廳が潛航艇戰を中止せしめんと獨逸に勸告を試みたりとの公式通告に接せりと(紐育電報)

○講和內談進捗說

獨米及び英佛間に於て別々講和に關する內談進捗しつゝありとの說あり(東京電報)

○モルトケ將軍の言明

アムステルダム來電に依ればモルトケ將軍は會談の際聯合側の軍需品生產力は獨墺の其れと同樣なりと陳べヴエルダン戰爭は最も重要にして恐らく全戰局上多大の影響を來すべしと言明せり(倫敦電報)

○白耳義沖の英獨海戰

英國海軍省の發表に依れば驅逐艦モニトー型軍艦よりなれる英國艦隊は白耳義沖に於て獨逸艦隊と戰ひしが敵艦隊は遂に退却せり(倫敦電報)

○土耳其方面露軍優勢

亞細亞土耳古エルツルム方面に於ける露軍は土軍を驅逐しつゝ前進を繼續し頗る優勢なりと(東京電報)

○佛將死去の誤報

佛國マルシャン將軍死去の報傳はるや英國諸新聞紙は社說に於て長文の追悼辭を揭げたるが巴里來電に依ればマルシャン將軍の死は誤報なる旨公文を以て發表せられたり但し如何にして將軍の死が誤り傳られたるかに至りては未だ何等の說明なし(倫敦電報)

○阪谷男歡迎さる

露都發其筋着電によれば阪谷男一行露都到着官民の熱誠盛大なる歡迎を受けたりと(東京電報)

○兌換停止問題善後策

外務省は支那政府の兌換停止問題に對する善後策に就き實業家側の意見を徵せり(東京電報)

○樞密院委員會

十九日午前九時より樞密院委員會を開催し工場法施行に關し附議する所ありたり(東京電報)

○文部省會議

文部省高等官會議に於て中等教員待遇法に關し附議の結果略々決定を見たり(東京電報)

○露國大使通過

駐日露國大使クルペンスキー氏一行は列車遲延の爲め十九日午前十一時安東縣通過赴任せり(安東縣特電)

○伊澤氏渡鮮

伊澤修二氏は十九日夜の連絡船にて渡鮮し大連に向ふ(門司特電)

○樺山大將

樺山海軍大將は十九日朝臺灣より門司に著直ちに別府に赴きたり(門司特電)

○名士渡鮮

貴族院議員和田彥次郞石渡敏一の兩氏は滿鮮視察の爲め內田良平氏は滿洲及び山東省の革命黨視察の爲め侯爵鍋島直映氏は京城へ赴く爲め各十九日朝新羅丸にて釜山著同十時三十分發列車にて北行せり(釜山特電)

○兌換停止と奉省

今のところ異狀なし

中國、交通兩銀行の兌換停止は滿洲の兩行支店にも北京政府より其の命令到達したれど奉天にては張巡按使と商務總會役員等と商議の結果奉省は暫く其の除外地となす事とし此旨政府に打電すると共に依然兌換に應ずるに決し兩銀行の態度平生の如くにして其の發行紙幣約三百萬元に對し約二萬百元の現銀準備ありと吹聽されし爲め今日のところ市場に格別の影響を與へず恐慌と目すべき程の事態も發生せざるが元來滿洲には多くの不換紙幣流通され中國、交通兩銀行と雖も其の發行紙幣に對し充分の銀準備を有せざること明白にして現に市場に現はれし兩行紙幣は銀に對し二分位の打步を要する有樣となり小洋票の上にも自然影響を及ぼし居れば今後若し小洋票を增通せしむるが如き事あらんか市場に不安を來たし延いて恐慌を惹起するなしとも測られず殊に孫一派の革黨員は昨今遼西地方を根據として盛んに活動を開始し形勢必ずしも樂觀を許さゞるを以て事變勃興せば之と共に金融市場にも變態を生じ動搖を見るに至らんも知るべからず旁々支那當局においては財界の趨勢に關し微弱ならざる注意を拂ひ居れり(大連)

○上半貿易

總額四百七十六萬二千餘圓

▲輸移出入額 五月上半の朝鮮貿易は輸移出品價二百五萬六千八十二圓、輸移入品價二百七十萬六千百四十二圓、合計四百七十六萬二千二百二十四圓にして六十五萬六十圓の輸移入超過を見たり、而して一月以降の累計は輸移出品價一千七百七十八萬七千八百二十六圓にして前年同期に比すれば百十一萬八千七百十三圓の增加を示せるも輸移入品價二千三百二十八萬八千百四十三圓にして前年同期に比し四百九十四萬三千九百十六圓の激增を示せるを以て前年同期の入超は百六十七萬五千百十四圓なりしも今期は五百五十萬三百十七圓の入超を算するに至れり

▲出入品價額 今五月上半並に一月以降に於ける輸移出入重要品價額を示せば左の如し

輸移出重要品(圓)

品目	五月上半	一月以降累計
米	七一、八九九	七、〇五三、七七九
豆類	一五九、八六〇	一、八八一、四三五
鮮魚	六、九五九	一〇一、四七二
乾魚及鹽魚	二九、八八九	一三三、七二二
人參	九三	五、一五五
綿花	四八、九五一	一、〇九二、五六〇
[illegible]	二六六、三九一	六〇二、九九一
鐵鑛	三四、一九二	一二二、四一三
黑鉛	一二、四二九	一四〇、一七五
石炭	一三、三九二	一八〇、四八一
牛皮	二九、七八六	一、四四六、九六〇
生牛	一七、一八七	一、三三三、九五一
肥料	二四、一〇二	二二二、六五五

輸移入重要品(圓)

品目	五月上半	一月以降累計
米	一四、七七八	一四九、九九〇
粟	一、七四五	九、五四六
小麥粉	三〇、二五五	二七〇、九八〇
食鹽	七六、八〇三	二六八、八四〇
[illegible]	三一、一七八	二〇〇、九三八
砂糖類	八三、一一三	六〇〇、八六五
清酒	二八、八三〇	二二九、五八五
麥酒	三七、九七六	一六五、七二四
石油	六、九一六	四二六、四三九
綿絲類	二三、三九五	一二一、一八一
綿織系	八六、五九六	一、三三三、二七五
生金巾類	一四、九三三	一、八三二、九二四
晒金巾類	三七、〇二三	一、〇六九、三六八
天竺布	一七、八一八	一、〇七〇、五五七
綿縮子類	二六、九〇〇	一八〇、三九四
日本綿布	一二〇、五八三	九〇六、〇四三
支那綿布	六五、八七八	七一〇、三四二
毛織物	一八、二三六	二二九、四〇五
絹織物	三一、三九一	五〇四、九六〇
紙	五九、五〇六	六四七、七二八
[illegible]	三三、五五二	二九三、九九〇
機械類及器	一一、〇二〇	三三三、五〇〇
[illegible]	一一三、七七五	三三二、六六八
[illegible]	四八、四四三	一七八、一五九
石炭	八三、五七三	五九九、七一九
木材及板	六二、二三四	三三三、五一一
[illegible]	三一、〇九一	二四七、四九七
セメント類	二二、〇九九	二〇三、九七三
マッチ	七、六〇二	三八〇、七二六

▲金銀出入高 尙ほ五月上半に於ける金銀貨及び金銀地金の輸移出入高は輸移出價額八十九萬八千四百七十三圓にして一月以降の累計價額は輸移出五百四十八萬四千百十八圓、輸移入十六萬一千二百四十六圓なり

○總督邸晚餐會

寺內總督は十九日午後七時より稅關長を官邸に招き晚餐の饗應あり總督府側よりは各部長官、局長、所屬官、署主要職員並に關係各高等官等陪席す

○總督大使招待

寺內總督は二十日正午より入京中なる新任駐日露國大使クルーペンスキー氏を官邸に招待、午餐の饗應あり露國領事館よりはルッチユ總領事、ヘフトラー副領事參列し、又た總督府よりは大屋、池田兩長官、小松、秋山參事官、兒玉總務局長、大藤、森、高橋兩武官、池邊秘書官、副官等陪席す可し

○稅關長會議(最終日)

稅關長會議第五日は十九日午前九時より第二會議室に開催各稅關長は勿論寺內總督以下各部長官局長關係各課長等出席し、荒井長官の指示、總督の訓示ありて午前十時閉會之れにて同會議は終了せり

○店長會議終了

朝鮮銀行店長會議は十九日も午前十時より會議室に開會前日の如く店務に關する協議事項の打合せありしが同日を以て會議を終了せり

○鮮銀の店長饗應

勝田鮮銀總裁水越木村兩理事は十九日午後六時半より來會中の各店長を朝鮮ホテルに招待し晚餐會を開き本店より高瀨山田兩局長大原高尾兩秘書役外高級行員列席す

○露國大使入京

新任駐日露國大使クルーペンスキー氏は大使館一等書記官エピッコフ氏を隨へ、十九日午後八時五十分南大門驛着入京朝鮮ホテルに投宿廿日午後七時十分發車上の豫定也

○露大使の日程

十九日午後入京すべき新任駐日露國大使クルーペンスキー氏一行の京城に於ける日程は二十日午前慶福宮、工業專門學校等を觀察し、正午總督邸に於ける午餐會に臨席、午後は昌德宮を觀、郊外を散策の筈なるが都合に依れば高等普通學校其他を視察す可く同日午後七時五十分南大門驛發汽車にて東京に直行す可し

○ミラー氏著期

露國商工務省代表者ミラー氏一行は十九日夜入京の豫定なりしが都合により二十五日長春發二十六日入京の事に變更せられたり

○竹內中將出發

入京中なりし豫備陸軍中將竹內正策氏は十九日午前八時四十分龍山發歸東の途に就けり

○立花師團長出張 (消息)

聯隊旗授與の爲め北鮮地方へ出張中なる立花第十九師團長は去る十五日咸興步兵第七十四聯隊の軍旗授與式を舉行し十六日淸津羅南に向け出發の豫定なりしが過日來海上風波激しく便船出帆せず漸く十八日出發せるが二十一日淸津著直ちに羅南に向ふべしと

○物集博士入京

文學博士物集高見氏は中村辰五郞氏と共に十九日午前內地より入京天眞樓に投宿せり

○藤澤參政官 (動靜)

藤澤內務省參政官は十八日午後三時遞信局を訪問池田長官と會談朝鮮通信事業に關する槪況を視察せるが十九日は午前朝鮮ホテルを出で田中事務官、田中通譯生の案內にて朝鮮銀行、東拓會社、商品陳列館、工業專門學校、中央試驗所を視察し正午昌德宮の牡丹花招待宴に列せる後更に動植物園、博物館、總督府醫院醫學專門學校等を視察せり尙ほ二十日は高等普通學校、同附屬普通學校、女子高等普通學校を視察の上午後仁川に赴き府廳、土木局出張所等を視察の筈なり

○望月氏總督訪問

十八日夜入京朝鮮ホテルに投宿せる望月小太郞氏は二十日午前總督府に總督以下各部長官局長を訪問せり

○吉原總裁消息

吉原東拓總裁二宮秘書役風呂中參事の一行は十七日大阪に入り滯在所用を辨じ十九日朝大阪出發東上同夜入京すべき旨同社に通知あり又井上總務部長も大阪より同行せりと尙ほ同社定時株主總會は廿二日東京商業會議所に開會すべし

○村田理事歸任

村田東拓理事は數日前歸任の筈なりしも旅行豫定より永引き十九日朝南大門著歸京直ちに出社せり

○三上鐵道院參事

國際聯絡會議列席の爲め入京更に滿洲へ赴ける一行より一人先行せる三上鐵道院參事は十八日午前南大門驛通過歸東せり

○馬山鎭海視察團

朝鮮民報(大邱)にては同社主催となり馬山鎭海視察團を組織し廿一日出發同夜歸來の豫定にて鐵道局は臨時列車を運轉する筈なり

○臨時研修會

總督府にては十九日午後四時より第二會議室に於て臨時研修會を開き關屋學務局長、平井專賣課長の臺灣視察談あり當日は臨時の事とて甲乙兩班に屬する判任官一同は勿論總督以下各部長官、局長、課長、高等官等數百名出席したり因に同會は夏季に入れるより引續き九月まで休會す可しと

○普通學校長會議

京城府內普通學校長恒例會議を十九日午後一時半より府廳樓上に開催せり

○朝倉中學生退京

入京中なりし福岡縣朝倉中學校生徒八十餘名は十九日午前八時南大門驛出發南下せり

○臺灣共進會所感

學務局長 關屋貞三郞氏談

土人の觀覽者と富力=市街地の整頓と衛生設備=朝鮮の參考資料=國語普及の難易=臺灣には同情せよ

臺灣共進會並に植民地施政狀況視察の爲め渡臺せる關屋學務局長一行の歸任を驛に迎ふるに同局長は元氣よく語りて曰く

未だ總督に報告もせぬ內なれど折角の御迎へに對し一言なかるべからざる可し、却說彼地の共進會も朝鮮と同樣非常の觀覽者にて其數約七十萬と註せられ豫定の三倍以上に達せし由なり、其の中、內地よりの觀覽者も却々多かりしが總督府は勿論地方廳にても非常に之れを款待し、手段を盡して諸般の▲觀察に便宜を與へたるより一同何れも大滿足を表せしが本島人即ち土人の觀覽者も亦頗る多數に上れり、這は當局の勸誘與つて力ありし事勿論なるも閑暇以外單獨にて見物に出掛けしもの少からず、殊に公學校學生等の觀覽生夥しかりしは富の程度が朝鮮の比にあらざるを證するに足る可し、又共進會其ものも朝鮮のそれと比較せば種々異れる點あり、第一陳列物には內地よりの出品非常に多かりしが之れ等に對しては一々審査を施して賞を與へたり又た會の經費は約四十萬圓にて朝鮮共進會よりは遙に少額なりしが彼地は建物を小にして▲陳列に重きを置き其大半を之れに投せり、何れか策の得たるものかは別問題なれど兩者を比較すれば勢から相違の點ありしは面白く感ぜられたり、兎に角共進會は成功裡に目出度く閉會せるは疑ふ可からず。予は十年目に臺灣を見たる譯なるが當時と比較せば各地とも著しく面目を改め居れり、例へば地方の一小市街に在りても市區は美事に改正せられ▲衛生的施設の如きは殊に完備して中には內地の都會に於ても到底及ばざるものあり、而かも其の經費は總て市場及び屠畜の兩稅を充當す、這は最も參考とす可き處にて朝鮮の如きもいつかはまた實現の期なかる可からず、其他諸般の施設亦之れに準じて漸次進展しつゝあるは勿論にして一方土匪の如きは昨年に在りても尙ほ終熄せざりしとて面白からぬ人あれど、島人と內地人とに論なく一般の幸福を增進しつゝあるは爭ふ可からざる事實也、又中には▲國語の普及に就きて之を朝鮮と比較し成績の上り難きを責むるものあるも兩者を一樣に取扱はむとするは殘酷にて、朝鮮と臺灣とは其間大に事情を異にせり、殊に本島人は內地人と言語の系統を異にし朝鮮の如く國語と接近せず、且つ鮮內には多數の內地人在住するを以て鮮人は之れに接觸する機會多きも臺灣には內地人少なきのみならず其距離に於ても鮮なからぬ遠近あり、國語普及機關の完否は姑く措き、之れ等の點より考ふる時は假令兩者同樣の努力を拂ふとも其成績に多少の遲速を免れざるは尤もの次第なる可し。▲彼地の暑氣は猛烈にして昨今は寒暖計九十度を越ゆ、而かも斯の溫度は四月の頃より九月に亙る情況なれば彼地の在住者は氣候に對しても亦た奮鬪努力を續けざる可からず、內地邊りにては時々當局批難の聲なきにあらざる模樣なるも臺灣には餘程同情の眼を注がざる可からず、總督も民政長官も就任後久しからざる事なれば將來は其努力に依りて必ず多大の成績を舉ぐるならんと信ず。

平壤

▲軍隊歡迎會 官民合同の軍隊歡迎會は十八日午後五時より牡丹臺に於て行はれたり當日朝來曇天にして風尙寒かりしも三百餘名の會員は定刻前已に集合し來賓なる市川旅團長野島聯隊長以下將校准士官七十餘名は稅關波止場より當筋に乘して著場爆竹の音と共に式場たる浮碧樓に入れり式は工藤長官の歡迎の辭を以て始まり市川旅團長は來賓一同を代表し叮重なる謝辭を述べ向井檢事長 天皇陛下の萬歲を三唱し本田府尹陸軍の萬歲を三唱し乘じ之れに和して式を終り直に宴に移れり當日は平壤府內の藝妓及び妓生模擬店を新庭し得月樓に於ては妓生の舞踏等あり非常の盛況を極めたり當日歡迎會は酒三樽を下士卒に寄贈したり▲南浦商議認可申請 兼て鎭南浦府民にて設立計畫中なりし商業會議所は此程具體的成案を得て五月十七日平安南道廳に其設立認可申請書を提出したるに依り道廳に於ては調査の上直ちに總督府に該書類を申達せりと▲麻生晉波氏 麻生晉波氏は十八日午前十一時著列車にて來壤午後六時發列車にて鎭南浦に歸りたり

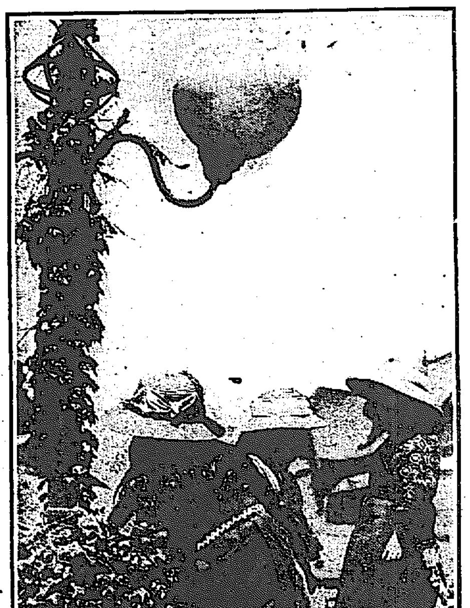
仁川

▲商議評議員會 仁川商業會議所にては兩三日中評議員會を招集し過般開會し決定せる同所給與規程を報告し米穀檢査規程の編成に付き決議する所あるべし▲森十八支店長出發 十八銀行仁川支店長森常吉氏は長崎に於て開催さるべき支店長會議に列席の爲め十七日午後七時八分初發驛發列車にて同地に向ふ

人事消息

▲トラスキー氏(浦鹽駐在露國領事) 入京中の處十九日朝出發元山經由歸任
▲三本武重氏(鐵道局營業課長) 浦鹽東淸線へ出張中二十四日頃歸任の筈
▲中村辰五郞氏(電氣會社中村組鐘支配人) 十九日午前物集博士と共に入京天眞樓へ
▲岡部築城本部長 二十日午前八時三十分發列車の豫定

◎訂正 十九日朝刊第二面所載『委員辭任の理由』中の十五行目『以上の協定を見たる內示し』云々の前に『同七日竹下氏と余は津川氏方を訪問し牧山氏の來會を促し』なる脫漏せり又同記事次の段第二十八行目『會社組の提出』云々は別行となる可きもの同七十行目『其起點に及びて』の誤植なり



夏帽子 ‖南大門にて‖

◉浦鹽の此頃

日露貿易五百萬圓から一躍九千萬圓 無鐵砲な税關=半襟を美術品扱

浦鹽松田銀行部支配人 中村光吉氏の談

浦鹽といふ處は咸北の清津とはホンの眼と鼻の間にありながら割合に朝鮮と貿易の無いには驚いた、朝鮮から輸出するものは先づ籾位のもので生牛も昨今は主に廉い山東牛が來るばかりで北鮮牛は極めて尠い、翻つて朝鮮に出すものは年額二三十萬圓の雜貨類でこれもお話にならぬ日本内地とは

▲軍需品の關係から 戰前五百萬圓の輸入額が戰爭以來一躍九千萬圓に昂つたのは悦ぶべきだが戰爭後も果して今の情況がつゞくか何うかは頗る疑はしい輸入品は主に露西亞本國へ行くので浦鹽の街は唯だ通過貿易に過ぎないがそれでも埠頭は昨今なか〳〵の大賑はひです留の下落には在留日本人の輸出商は悦んだけれ共反對に

▲輸入商は弱つた 何といつても日貨百圓に對し百六十留といふ割に換算せなければならぬから例へば籾を輸入するにしても將來二三箇月先きの留相場まで豫想してかゝらねばならぬ若百八十留にでも下落すれば大損をする、併し低廉場合は輸出商はこれと反對で悅んだ、浦鹽の日本商人は從來誰れ一人として成功した者が無い、彼處では

▲露國一流の常識で は判斷もつかぬ法律があるのでとても尋常一通りでは商賣が出來ない、お剰けに關税の如きも頗る無鐵砲で例へば島渡刺繡のある一圓に足らぬ半襟一つが美術品として滅法界の課税せられるかと思へば一枚十萬圓もする立派な刺繡も綿に脈つぽい額縁をつけると關税は家財道具として素敵に廉い、それで

▲露西亞と取引する人 は此の邊の呼吸をのみこんで居ないと往々にして飛んだ莫迦を見る、獨逸人などは官民共に課合せて此の邊の呼吸を心得て居るから獨逸品の勢力は實に素晴らしいものであつた、それに露國との取引は一年二度の半期決算が歡ばれるから獨逸などは政府が各種の便利を計つて商人を援助して居る、日本などでは日露貿易を唱へる人も唯だ口頭の空景氣で實行がこれに伴はぬから駄目である

◉上海革黨首領重傷

刺客陳其美氏を狙撃す

十八日午後上海革黨の首領陳其美氏は支那人周某の爲拳銃にて狙撃され重傷を負ひ生命危篤也（上海特電）

◉白晝海賊

▲鴨綠江鐵橋下に現れ ▲短銃を擬して强奪す

去る十五日朝鴨綠江大鐵橋下に五人組の海賊現はれ折柄航行中なる貨物船を襲ひたる椿事あり被害者は鮮人船頭乘組みて新義州棧橋に運搬すべき貨物數點を積み込みて對岸より出で鐵橋下に差蒐るや一艘の戎克船現はれ五名の支那人は各自に短銃を擬して脅迫したれば船夫は懲き船を停たるに五名の支那人は悠々と同船に乘り移り

▲船夫を縛して 後貨物全部を奪ひ下流に向つて逃走せしかば被害船夫は直ちに鐵橋巡査派出所に事の次第を訴へたり斯くと聞きたる巡査は本署並に安東警務署に報告せるを以て兩署は直ちに署員を召集し海陸共に非常線を張り一方新義州署警備船隼丸は追跡隊の警官を乘せ下流に急航搜査を行ひたる結果同夜十時頃六道溝なる江岸に怪船の浮べるを發見し取調べたる處果して船中には件の被害貨物ありしかば此旨本署に急報し安東側

▲陸上の大搜査 を開始し翌十六日午前三時安東驛と六道溝間なる道路にて海賊五名莊河廳生れ張福臣(四)曲忠子(三)毛有禮(二)畢仁江(二)を逮捕し(内一名逃走)目下取調べ中なるが此奴等は海陸の賊が巢窟とせる莊河廳大孤山に根據を固め居れる兇賊にして今回働ける贓品の數は米十三俵、靴若干、傘一反物一約二百圓に達し尚ほ餘罪ある見込みなるが同署の調べを終ると共に支那官憲へ引渡す方針なりと（安東電）

◉滑稽な診斷書

傷を大怪我と書く醫生

京城西界洞料理人林德三(三)は黃金町一丁目林潤鎬と知合ひなる關係上同人の嫁がるにも拘らず常に出入し居れるが四月二十日僅かなる菅藥の行違ひより德三は潤鎬に斬りつけんと及物を握らんとしたるを以て潤鎬は同人の腕を確かと押へて一先づ其場は事濟みとなりたり然るに德三は雲泥洞の醫生洪淳烱の許に至り診斷書を要請したる所同醫生は其の書式例を見て「右手背示指掌骨の中央に深さ骨に達する創縁鋭利なる刺傷」と作成し呉れたるものを告訴狀に添附し本町署に提出したるものにて取調べの結果德三は微傷だになく右は全く醫生の無識より起れる滑稽なりしと

◉京元線の浸水

直に復舊工事を終る

數日來の降雨にて咸南安邊山崎川は大增水を爲し目下改築工事中の鐵道線路龍山起點百三十五哩即ち同川附近約四鎖の假線は爲めに浸水し一時列車不通となるに至れるより鐵道保線區掛員は總出にて應急復舊工事に着手せしも何分同所は目下昨年來の水害の爲め線路改築工事中の場所柄とて終に浸水に止むなきに至りしものにて約二時間にて復舊工事を終りたり（完山）

◉李王總督招待

仁政殿前栽の牡丹觀賞

李王殿下には十九日正午より寺内總督を主賓とし目下入京中の阿部築城本部長、藤澤内務省參政官並に古海稅務總長、白水軍參謀長、兒玉總務局長、森高橋兩武官その他を陪賓として午餐會を催ふし目下滿開の仁政殿前栽の牡丹花を觀賞されたり

◉前科三犯の賊

便所より忍び込み衣類十五點を竊取して御用

福岡縣京都郡延永村當時京城蓬萊町三丁目居住岩武安壽(三)は前科三犯あり五月七日夜外一名と共謀し龍山漢江通り雜貨商酒井某方の屋根に昇り二階窓を押し開きて侵入し八圓餘在中の手提金庫一個を竊取したる際家人に發見されて兩名共逃走し引き續き同地中野某方にも便所より忍び込み衣類十五點(百五十五圓)を竊取して夜明方之を知人なる三重縣志摩郡船越村當時京城蓬萊町三丁目油商前科四犯者なる北川里吉(三)方に持ち行き情を告げて同人の内縁の妻大分縣下毛郡豐田村生れの西野なか(二)に賣却せしめんと目論見居れる所を本町署の刑事に探知せられ何れも同署に檢擧されたり

◉綾川休場

綾川は初日眞砂石に敗れたるが例の持病の腎臓病のため休場を申出でたり

◉重石と命の交換

忠南天安郡平居面堂里生れの金友先(三)は十五日午後四時頃京畿道水原郡儉德面半月山腹谷間にて重石採掘中俄然崩落し來れる五百貫位の岩石の下敷きとなりて慘死を遂げたり急報に接し水原署員出張檢視の上屍體は實兄へ引渡したり

◉醫事集談會

朝鮮醫學會京城支會にては二十日午後三時より醫學專門學校講堂に於て醫事集談會を開き左の講演ある筈なり

一 半身舞踏病(患者供覽) 金溶採
二 皮角(患者供覽) 渡部醫學士
三 兩鼻腔全閉鎖(患者供覽) 坂井醫學士
四 耳下線の肉腫(患者供覽) 室谷醫學博士

◉不心得な店員

岡山縣小田郡神島内村字入沼新田生れ松浦久(二)は昨年九月中旬より鎮南浦に流れ來り同月十八日より龍井町桝井油店に店員として雇はれ居たりしが去る十六日掛金四十二圓四十三錢を集金の上橫領して姿を晦ましたるが安

狙擊されし陳其美氏

世人の注意を喚起した賣淫問題

‖宮舘本町署長談‖

□賣淫問題に對する科學的研究は實に近時に至りて初めて開始せられたのであつて從來世人の之に對する態度は賣淫なるものは傳來的の職業にして結局根治すべからざるものであると斷定して居つた

□從つて自然、今吏其の弊を云爲するも何等の効力なきものなりとし、或は文明の産物なりなど、諦らめ理論上に於ては之を高閣に束ねて其の解決に指を染むるの勇氣がなかつたのである

□併しながら是は純理論家の口吻であつて、實際に於ては朝野の經世家は此弊害を最少限度に縮少せんとして有ゆる方法手段を盡し間斷なく焦慮苦心しつゝあつたのである

□而して賣淫問題に對する刑政的方面の思想の變遷として近時最も注目するの價値あるものは賣淫の行爲は惡事であつて犯罪ではないと云ふことである佛國の臨時議會委員會は兩三年前全會一致を以て婦人の賣淫は犯罪にあらず從て刑法の適用を受くべきものにあらずと決議した

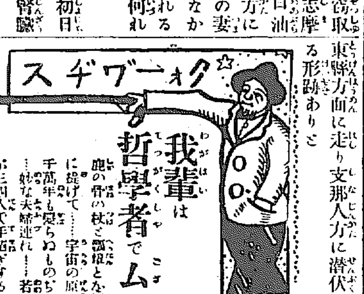
□英、佛、那威、和蘭、瑞西等では風俗又は公衆衛生を害したる事實の伴はざる限りは賣淫其のもののみを以て罪として論せぬ事になつて居る

□獨逸は其の刑法中に「警察の監視の下に在らざる婦人にして報酬を受け賣淫したるものは禁錮に處す」との明文があるも實際に於ては此條項は嚴格に適用せられぬのである

□而して目下草案となつて居る獨逸刑法案は餘程進歩したもので「男女分たず賣淫を常業とし且風俗、公安、衛生の保護の爲に制定せられたる法規に違反したる者は禁錮に處す」とある

□要するに各國刑政上の趨勢としては賣淫の行爲、其のもののみにては罪として罰せぬが、公安、風俗、衛生に危害を及ぼしたる瞬間に於て茲に始めて犯罪を構成すると云ふことになつて居る、社會的方面より觀たる此問題に對する近代的思潮は次の機會に御咄することにしよう（終）

スヂワーク☆ 我輩は哲學者でムる



鹿の骨の杖と瓢箪とを手に提げて……宇宙の原則は千萬年も變らぬものぢや！……妙な夫婦連れ……若い女が三四人で手招きする 漢陽公園にて チロニ坊

南大門下の穹窿の中にボツネンと立つて居る僕れは是れでも哲學者でござる一體人間といふ奴に妙な記憶と云ふ要ざるものが御坐るに由つてクヨ〳〵と泣いたりグラ〳〵と笑つたり致すが記憶とか歷史とか云ふものから超脱すると人間は何時も〳〵

◇新らしい感じで 世の中を見る事が能きる吾輩は憚りながら哲學者でござる、哲學者と云ふものは不斷の思索が必要でござるそこで吾輩は今、龍山から來たのでも無ければ東大門から來たのでもない況して本町や大平町から參つた者ではムらぬ

◆吾輩は幼稚の昔から既に立つて居る所の人間

でイヤ哲學者でムる餘り退屈だから出てこれから漢陽公園から南山の方を巡つて參らうと存じ鹿の骨の杖と瓢箪とを兩手に提けて城壁をそろ〳〵と登り初めたいやどうも春が去れば夏が來ると云ふた大宇宙の原則は千萬年變らぬと云ふのは

◇何んと云ふ會心 の事だ夏だ夏だ京城の市街は雨晴れの綠だ！オヤ〳〵向ふから來るのは妙な御夫婦だな公園から歸りがけに何か靜かにひそ〳〵話をしるらしい

女「鼻の下の長いのも好い加減にしなさいよ、あんな公園の女なんかと巫山戲廻つてさ

◆現在女房の姿が見えて居る前で一盞あり何んと

云ふ眞似なんですかよう」

吾輩「フン〳〵尤も〳〵夫婦は神聖なるものでゴザル、アダム、エバ以來神聖の誼でゴザル」

男「これ何を云ふのだ見ともない醉つて少し位ゐ小娘に冗談云つたのをさう向きに成つて怒る奴があるものか、それだから何時も自宅では

◇喧嘩が絶えぬのだ」

吾輩「コレも尤もだ醉うて冗談を云ふ事勿れと云ふ法律は羅馬にもゴザラヌ元來女は口喧しいものだ」今少し喧嘩に花が咲いて其處へ吾輩が飛入んで哲學の講義をして聞かせる男女が感心して吾輩を信仰する斯んな

◆處まで行くと面白いなあ

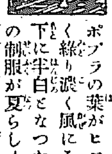
◆と考へて居ると何んの邪

ぢや誰も仲裁せぬ内に和睦して城壁を下つて失せる、ヘン不徹底の人間共だ似た者夫婦とは此れの事カイ公園の上に登ると可成りの廣い平地が有る一體これは何を爲る處だ運動場やら毬場には狹いし腰掛場には廣すぎると吾輩は暫時懐疑的思索に耽つたが

◇聰明なる哲學者 は直ぐに其の胸中に之れを了解し得た曰く「之れは吾輩の出現を待つて其の道啓深き哲學の講義を聽かんが爲めに設けたる山上の演壇である嗚呼愛すべきかな京城の吾民よ」斯うと呼びながら猶奥の方へ進んで行くと「漢陽公園」と云ふ石碑が立つて居る聰明なる吾輩には之れを見て直ちに何故に此の山を

◆漢陽公園と呼ぶかと云ふ事が直ちに解せられた

これはこの石碑の文字の示す通り漢陽公と云ふ人の葬られて居る園と云ふ意味だ哲學者は斯樣な時には一番に悟りが早いのでムる、イヤ向ふの軒から我輩に要事ありげに若い女が三四人手招きをして居る然り哲學者は若い女からも信仰されるものでゴザルぞ（つゞく）



ポプラの葉がヒヨロ長く緑り濃く風にそよぐ下に半白となつた警官の制服が夏らしくなつた▲十八日の午後七時四十分黃金町一丁目停留所で第百十五號電車が脫線した乘客は度々乘り替へさせられるので大に困つた▲先日露西亞へ賣却した分捕軍艦三隻は初め日本が無償で友邦の爲めに贈るかと思つて正直な露人は非常に悅むだしかし日本の新聞が金をとつて賣り渡すのだと素破抜いたので露國人はいま〳〵しがつたと浦鹽歸りの人のはなし

書畫骨董入札

蘇東坡、趙子昂、米元章の書、仇英、文徴明、唐寅、沈周の畫外、夏珪山水、馬麟山水、倪雲林、董其昌、山陽、竹田、崋山、梅逸、古硯、古墨、古銅器、三浦梅園、一刀彫、佛像、青磁、菓子器、秋月、支那銅器類、朱机、其他珍品及セス、イ、茶器類の珍品の依托に相成り繁居の今回は菓子器等の珍品のみ出品も完全なるものに付是非御高覽相願度候

五月廿日より五月廿一日午後七時迄下見、其夜共同廿一日午後七時より開札

京城南山町三丁目 電話二〇二番 佐々木聚古堂

東京大相撲 夏場所星取表

（表中○勝●負×分▲預や休）

東の方		西の方	
西の海	○	鳳	や
大錦	○	太刀山	○
對馬洋	○	伊勢濱	○
栃木山	○	大蛇潟	●
兩國	○	緋の濱	●
九州山	●	石山	○
源氏山	や	大鳴門	○
宇都宮	○	玉手山	○
國迦嶽	●	八甲山	●
紫雲龍	や	鳴月洋	●
小常陸	●	鶴渡	○
近江藤	●	金の花	●
岩木山	●	黒瀬川	○
大の川	●	響玉子	○
宮城山	●	眞砂石	○
梅川	●	千年川	●
朝錦	●	土州山	▲
稻葉嶽	●	稻の穗	×
州海波	×	紅葉川	●
龍ケ崎	●	明石	や
玉の川	▲	柏戸	○
逆鉾	○	敷島	○
綾川	●	朝潮	●
勝星 七 / 負星 十二		勝星 十二 / 負星 七	

◉豚小屋で縊死 仁川府花平里桂洞植方同居草鞋職趙昌根(五二)は……來りたる爲め非常に落膽し遂に十四日午……

……逮捕し竊盜犯として目下取調中也と……十日にも他の箇所にて十五圓餘の泥棒を働きたる事件は十三日京城地方……

▲十八日午前入港さくら丸一二等客（一等三名）……

曇但少雨 五月二十日

印刷機械

▲弊所は目下材料暴騰の際と雖も從來の御愛顧に報ゆる爲め此際最良機械を最低價格を以て販賣す 改良の所は多年の經驗と實力に依り新案第三七三九號印刷機械は堅牢にして斯界に永年の使用に堪ゆる特許の實用新案の機械を使用せらるゝ人々の御賛成を以て明らかなり 此の機械を進せず御用命の程奉願上候

大阪市東區内平野町壹丁目 渡邊鐵工所 電話東三四九六番 振替大阪四七二三番

醫科大學病院御用 純良 赤門葡萄酒

滋養補血ニハ赤門葡萄酒ニ限ル

大阪道修町 小西商店洋酒部 各地信用アル洋酒食料品店にあり

廣告

「エル、レパース」氏は今回「ミス、デイー、サルタレル」より解傭せられたるを以て爾今大倫敦制佛人金鑛には何等關係無之茲に謹告致候

大正五年五月十五日 京城 エル、ロンドン

安全コクオー 無害

東京、大阪 各衛生試驗所 試驗濟

特長 まけず かぶれず てまいらず はげず よごれず まつくろにつやよくそまる

京都、大阪、神戸 大典博覽會 金銀賞牌受領

大阪 高橋盛大堂

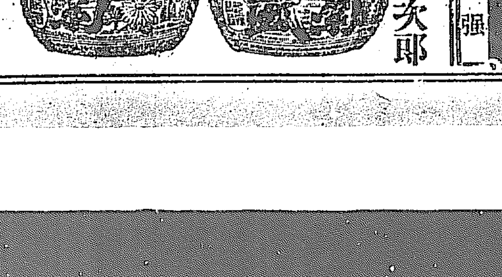
志から赤毛ぞめ

京城永樂町一丁目（陳列館前） 内科 小兒科 村上病院 電話六二三番

院長 醫學士 村上龍藏

副院長 熊本醫學士 松下三雄

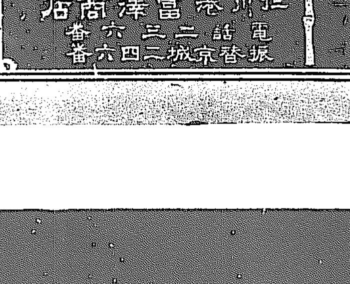
醇良清酒



醸造發賣元 大阪府堺市 肥塚源次郎

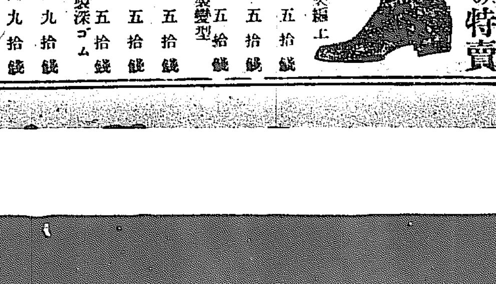
特約販賣店 京城本町二丁目 佐藤牧太郎

特約販賣店 同 本町三丁目 明治屋支店



印入大勉强

夏向團扇 雜貨 酒類 卸商 仁川港 富澤商店 電話二三六番 振替京城二四六番



ボックス製 長靴 長サ一尺三寸 金四圓八拾錢 一尺五寸 金五圓五拾錢

ボックス革製編上 第一號 金貳圓五拾錢 第二號 金參圓五拾錢 第三號 金四圓五拾錢

ボックス革製變型 第一號 金貳圓五拾錢 第二號 金參圓五拾錢 第三號 金四圓五拾錢

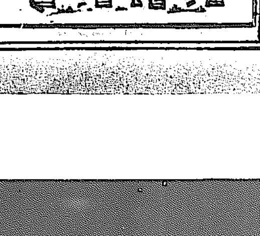
ボックス革製深ゴム 第一號 金貳圓九拾錢 第二號 金參圓九拾錢 第三號 金五圓五拾錢

右の均一靴は精選せる材料と熟練なる技術を以て最も入念に製造せし品なれば一般實用紳士靴として好適なり ▽御注文の節は靴種類と足袋の文數御通知あれば代金引換小包（送料實費）にて送附す

最新目錄無代進呈

信用ある東京三金の特賣

東京市芝區愛宕下町 三金高等靴店 電話芝六九〇番 振替東京一七一三番



閑靜にして避暑避寒に宜し

溫陽溫泉

腕の人

シュツ〱といふ鉋の音

＝工專の木工科＝

私は先づ工業專門學校の附屬工業傳習所を見た、第一番に木工科を見た、學校といつても此所は普通机があり黒板がある教室とはちがふ、先づ案内されるまゝに隨いて行くと其處には槌の音鋸の響き、さてはシュツ〱と威勢の良い鉋の音などが室内に滿ち亙つて生徒は何れも

＝側目もふらず働＝

いて居る、成程腕の人を養成するには充分の作業場である、生徒の年齡は槪ね十四五歲位が多くそれが内鮮人合同の教育であるが何方が内地人子弟か鮮人子弟か見分けもつかぬ位ゐである、中に大工さんが居るから何うした人かと訊ねるとこれは生徒と一緒に働らいて眞個の槌のたゝき方を敎へる役を勸める人だといふ、また

＝年の多い生徒は＝

傳習所二個年の課程を了へて猶ほ自營圍で腕をみがく人々であつた、木工科の生徒は先づ入學した年の一學期は皆んな一緒になつて鋸、槌、鉋の使用法を敎はる、それから第二學期になると造家部、指物部、車輛部の三つに分れて二年目の終りには一人前の大工さん指物屋さんになるのである、指物屋さんは始め門札

＝糊板、花臺、塵取り＝

なぞを作る、造家部は先づ雨戶、硝子戶、朝鮮障子から勉强して一棟の家を建ることまで敎はる車輛部は初め轆轤から學んで荷車、荷馬車、牛車等を學ぶ、現に平安道の某巨刹からは寺の山林で車を作る計畫の爲めに二三の生徒が入學して居る、見れば傍には衣服簞笥や食卓、机、戶棚などがいろ〱

＝美事に出來上つて＝

居た、學科は英語、國語、朝鮮語、理科、數學、修身、體操の七課であるが全く將來腕の人として立つ人々であるから學問の方には餘り重きを置かない方針であるといふ、併し机の型や卓子の形態の工夫、象眼にする圖案樣樣などにはそれ相當の頭腦を要することであるから在學中は努めて生徒自身に自發的に工夫させて居る（つゞく）

「日本は美しく柔かき夢か……」

□□□露國詩星バルモント氏の感想□□□

□ゴルキー、タゴールなどの思想家や詩人が相踵いで日本を訪れるといふ今日頃日露國詩壇の明星バルモント氏は突然日本に來朝した□氏はウラヂミル縣シューヤの生れ生來山野の跋涉を好んで先年埃及及びアラビヤ印度地方を旅行したこともあるといふ□道件は夫人及ツエルフツガブスカヤ孃の三人で東京觀光の上は日光から京都奈良方面を遊んだ上敦賀から浦鹽を經て歸國する筈□年は四十九歲といふが年より稍ふけて見ゆフサ〱と垂れた金髮と熱烈な詩人的表情とは電光のやうに閃く、十一箇國の國語を解する氏は流暢な英語で途中瞥見した鎌倉の感想を語り□「その幾多の古美術古建築は秀麗な風光と共に私の日本に對する憧憬を一層强いものにしました日本は花に滿された樂園です私は此處に生を送る事が出來たら如何に幸福でせう」と語りつゝ聽てペンを執つて記した卽興詩には「全日本は美しく柔かき夢か、打てば打て、われは此國を愛せざらむも得ざるべし」とあつた

婦人界消息

▲井上理事夫人（東拓理事夫人）令孃結婚式の爲め母堂さと共に郷里岐阜へ歸省されました
▲高橋欣子氏（山林課長夫人）昨今御病氣で引籠中です
▲坂出愛子氏（坂出鳴海氏夫人）良人の歸朝を出迎へ旁久しぶりにて内地へ旅行、六月上旬良人と共に歸京されます
▲三島靜子氏（鮮銀理事夫人）御子息腫脹の都合上大分縣別府不老町へ滯在八月頃までには歸京されます
▲渡邊可壽子氏（高等法院令孃）過般[illegible]へ入學されました
▲河村靜子氏（地方法院檢事夫人）[illegible]郷里山口縣に歸省されました

□散步家列傳（一） めちや吉

A君＝この人は散步だからと云つて、決して茫然散步はしない、下駄も耗ふし腹も空るが、だけそれだけそれを補ふに充分な何物かを散步から得ようと云ふのが、此人の散步に然る物の有る處だ、田舍の小學生が修學旅行に來た樣に、始終眼を八方に配つて步を運ばせて居る、何町の何軒めの八百屋がないと云ふ事も知つてるし、又何處に別嬪の頭が有ると云ふ噂さへも御存じである。

神社と教會とお寺

▲西本願寺（永樂町）十九日、廿日永代經廿一日は宗祖降誕會執行當日は餘興等の催しもあり
▲高野山別院（新町）廿日午前八時より御影供法要執行廿一日は午前二時から[illegible]大師教會は毎月廿日廿一日開催
▲金光教會（南米倉町）廿日午後二時より春季大祭を執行し吉備舞の奉納あり式後親睦會
▲美似教會婦人會（旭町二丁目）十九日午後一時半より例會開催牧師の聖書講義あり

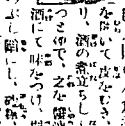
■浪花館の圓遊を聽く 十七日から蓋を開けた浪花館の圓遊を聽く、時間が後れて行つたので前座は大概濟んで一圓遊が上つてゐた、此男圓遊の弟子だつたのが落語家お定まりの道樂か何かで破門されてゐた所圖らずも當地で廻り合つたので仲裁する人があつて詫が叶ひ一變して此度に出る事になつたさうだ、さて師匠の許に歸參が叶つた喜びが自然に高座振りに表はれて元氣に見えた、[illegible]中はツイ聽かなかつたが中々達者に演る、永らく田舍を廻つてるせいか何だかギス〱した所があり[illegible]が立つたやうな所がないでもないが大體腕かなので前受は頗る好い、遊之助の音曲と遊奴の踊りは[illegible]手がきれいなのが果敢によく氣のきいた踊りを見せてゐる、[illegible]の前文句の長いのには恐れ入つた、京城ではあんな耳だるい樂屋落を嫌ふ人が多い、矢張り耳新らしい小噺でも枕にするかそれとも最も端的にすべきである、しかし客の所望さへあつて甘酒を演つたがさすがに之れは故人の圓遊が得意噺の一ツであつた丈にうまいものだつた、[illegible]の戰爭話を挿話したのは吾輩には餘計だと思つたが之れは本人の了見になるものらしく大分受けてゐた、途中に[illegible]を引張出して音曲を入れたのは却つて煩さかつた、故人の衣鉢を繼いた一流のステテコに得も言はれぬ輕妙な所を見せたのはうれしかつたが話は[illegible]らしくどつしりと行つて貰ひたかつた、いくら色物でも餘りコツテリ過ぎたと思ふ、話の數も多く有つてゐるらし何を演つたつて十分にコナシてわけるのだから話は話、トコトンはトコトンと別々にして貰ひたかつた、だかその邊には[illegible]もあり[illegible]もあつて小圓遊の二代目の圓遊が引込めなのに較べて確かにいゝと思つた（太郎法師）

▲壽座●新派改正義團一座
▲御成座●[illegible]一座のお[illegible]
▲佐久良座●市川開之助一座の浪花節芝居
▲有樂館●廿日午後六時より[illegible]の催し
▲高砂館●[illegible]

番茶のあとさき

◇陸軍軍醫監の椅子を退いて專心文學に後世を送らるゝといふ森鷗外さんは近頃日永を東京の裏店住居りに暮して居るといふ事だ、それは曾て博士が心掛けて居た名醫傳の材料を思ひ立つた爲めださうな◇内地の人が朝鮮へ仕立羽織一枚を小包で送つて税金をとられたさて小言を云て居た内地から來る羽織物は[illegible]の百分の八、木綿ならば百分の七、五なさうなので思ひ承知ないものと見える◇大日本婦人矯風會々長の矢島楫子刀自は此程大隈首相を訪問して大阪飛田遊廓の認可取消及び私娼撲滅に就いての意見を述べられた相ですいつも乍ら感ずべきお方と申さればなりません

だいどころ その日〱



□烏賊の小倉煮 [illegible]を除いて皮をむき、適宜に切り、酒の煮立ちし[illegible]へ入れさつと茹で、之に醤油、砂糖、酒にて味をつけ、別に小豆を柔らかに煮てつぶし餡にし、砂糖、酒少量を加へて煮あげ、この中へ先の烏賊を交ぜてもります。

商況

東京株式特電
十九日 前場寄付 [illegible]

債券現物特電（前日との比較）
[illegible]

公債直取引（前日との比較）
[illegible]

深川在米特電
[illegible]

東京期米特電
[illegible]

大阪期米特電
[illegible]

大阪株式特電
[illegible]

大阪三品特電
[illegible]

下關期米特電
[illegible]

朝鮮物產特電
[illegible]

雜報

●綿糸底堅し [illegible]
●鐵類益々軟弱 [illegible]

●牛皮益々昂騰 牛皮は一時の出廻り減退の時期に入りたると近來支那皮の輸入捗々しからざるとにより[illegible]買進み益々[illegible]大阪よりの買注文頻々たる有樣なるが何分出廻りの稀少なる爲め[illegible]互にザリ〱買上げし結果昨今にては七十六圓と云ふ高値を示すに至り前報後五六圓高なりしが更に此前月よりせば約十二三圓方の昂騰となれり

●綿絲昂騰 [illegible]

●燐寸益不勢 [illegible]相場は暴騰するに至るべし

●精糖は氣丈 [illegible]

田中金太郎 電話[illegible]

下關相場
[illegible]

京城正米
[illegible]

京城雜穀
[illegible]

南大門の廻穀
[illegible]

仁川現物市場
[illegible]

利 仲買店 仁川米豆取引所仲買人

釜山市場 十七日
[illegible]

仁川期米
[illegible]

▲十九日前場 [illegible]
▲一節十六錢八錢高の入電 [illegible]
錢と安移 [illegible] 四節〇九

市場雰聞
▲前場上伸す [illegible]
▲買聲勝にヂリ〱 [illegible]
九錢と跳れ返し强硬 [illegible]
散會 [illegible]
尙形勢侮り難し [illegible]
㊐續て買ふ [illegible]
㋑能く賣る [illegible]
㋩の買物 [illegible]
場面は强硬 [illegible]

吉 行賀仲買店 仁川 [illegible]

▲期米眼先觀 [illegible] 度と變らん存外强硬の態 [illegible]

▲植惣賣多し [illegible]
▲受けて大阪の跳れ返し [illegible]
腰入賣に非ず根底頗る薄弱 [illegible]
▲强氣の前途觀 [illegible]

確實 迅速 廣瀬茂太郎 仁川米豆取引所仲買人

仁川米豆取引所 十九日の七月限

寄付	十三圓九十三錢
止め	十三圓九十二錢
高値	十三圓九十六錢
安値	十三圓九十錢
出來高	九萬[illegible]百石

前場平均値段	
一節	十三圓四十四錢
二節	十三圓四十四錢
三節	十三圓四十四錢
四節	十三圓八十六錢
五節	十三圓八十八錢

賣買取組高 五月限 三千五百五十石 六月限 四千三百石 七月限 二萬九千石 前日と較比 [illegible]

北濱だより

▲明治製煉株 [illegible]

三巴仲買店 仁川米豆取引所仲買人 電話[illegible]

演藝案内

大正館 電話八七三 [illegible]
壽館 電話一〇五〇 [illegible]
御成座 電話二九一 市川海老松阪東龜鶴一座 [illegible]
大正館の特別寫眞 ◎新派悲劇 五月鯉 全三卷 ◎泰西活劇 富の値 全三卷 ◎義士外傳 俵星玄蕃 全三卷 義士銘々傳五十編の内第二編 生ひ立ちより討入助勢まで
黄金館 電話二六三七 [illegible]
浪花館 電話二六〇 三遊亭圓遊一行來る [illegible]
壽座 電話五七八 [illegible]

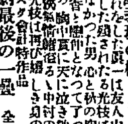
肺病 肋膜炎 氣管支 [illegible] 名古屋市西區本町三丁目 鈴木盛角堂

婦人科 產科 入院分娩隨意 京城旭町一丁目 院主 衣笠茂 中央婦人病院（電話二三四〇番）

優等清酒

福岡縣三井郡山川村 釀造元 富安本店 京城永樂町二丁目 發賣元 富安京城支店 電話一〇三九番 振替口座四三九番

京城南大門外鐵道踏切側 今本醫院 電話二八五二番

金牌受領 本舖東京 井善製

最もよき髮油 御滿足を必らず得られます 皆さまが、毛髮について お望みは黒くて艶があり 癖がなく、そして濃く長ければ良いので それには、何より[illegible]をお使ひ遊ばせば
大阪南久寶寺町四 支店 藤森源之助

内科 小兒科（入院隨意） 京城府龍山元町（憲兵隊側） 幾野醫院 電話二〇四番

大王 虫除

偉効の光に 虫共の眼が眩惑で 好物の衣類や書籍や寶物に近寄ることさへ出來かねて 殘念ながら何日も退散!!
定價 大形金十二錢 中形金七錢 小形金三錢五厘 碁石形 大箱金五十錢 小箱金十錢 各地藥店 小間物店にあり

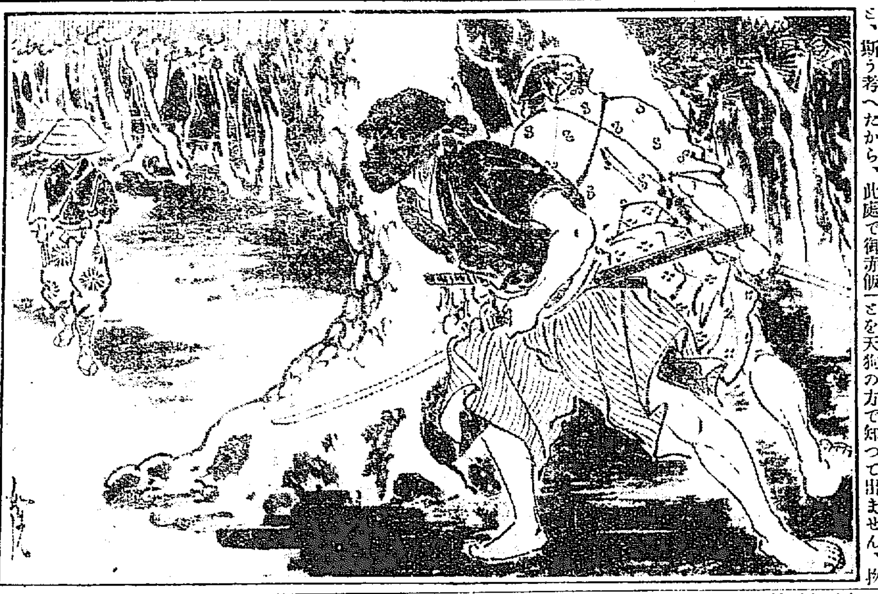
京城本町四丁目（櫻井町角）電話二三二四番 七星堂醫院 診察無料 藥價低減 院主 鈴木慶藏 醫師 垣田精一 醫師 淵上或

宮本武藏

第四十三回

桃川如燕口演
浪上義三郎速記

武藏先生は道程を聞いて二里八町あるといふから 武「三六一里か 爺「五十町一里で二里八町でございます」そこで武藏は考へた、先づ此處で己れが手間を取つて出掛ければ日が暮れて仕舞ふ、三月の頃であるから熱くもなし寒くもなし恰度宜い加減な時候であるから夜の中に津山の町を越して仕舞へば誰にも目付かりはしないと、斯う考へたから、此處で御赤飯を食べて腹を拵へて行かうと思つた時に茶店の爺が 爺「お侍樣に伺ひますが、貴方は御城下の方へ是れから入らつしやいますのでございますか 武「如何にも左樣 爺「此の二里八町の松原に天狗が出るといふことをお聞きになりませぬか 武「イヤそんなことは聞かないが、何んだ天狗といふのは…… 爺「天狗樣が出まして人を殺します 武「馬鹿を云へ天狗といふものは日本で天狗、唐では仙人といふが、斯う云ふものは有らうとは思はれない、狐も貴いろい只の狐は野狐といふ其から黒くなつて黒狐と云ふ、それから斑になつて斑狐と云ふ、それから白くなつて白狐となる白狐となると飛行すると云ふことである、飛ぶ位な功を經ると是を天狗と云ふ、能く畫に出てあるが顏が赤くて鼻が高い、あんなものは有るべき筈はないが、是迄の間に其天狗が出て人を殺した事でもあるか 爺「私が知りました許りでも八九人殺しました 武「ためし切ではないか 爺「試し斬りではありませぬ、御城內の役人衆が忍び廻りに出ます時は、今日は忍び廻りがあつて出來ぬと云ふことを天狗の方で知つて出ません、物取りと云ふ疑もありませうが、只の一遍でも物を取つた事はありませぬ、全く天狗の仕業であります 武「然うか 爺「其ゆゑ悪いことは申しませぬから私方へ今晩お泊りなすつて明日お立ちなすつたら宜しうございませう、此所が私方の出張りで此下に家がございます 武「イヤ爺、お前の思召は忝けないが、私は些此の御城下を通ることの出來ない身分のものであると云つて駕籠で乘打をしたら何以て濟まない、お前の所へ今夜泊つた處が明日日の暮れるのを待つて立たなければならぬ、其に私は劍術が出來るから天狗が出ようが何が出ようが差支ない、安心してどうか立たして呉れるやう 爺「さうでありますが、それも出來ると仰しやつても手前極では當にならぬものでして是まで御侍樣の切られたお方もありますから…… 武「ヂヤア已れがお前の安心するやうに、己れの腕前の勝れて居る處を見せてやらう 爺「見せてやらうと仰しやつても、手前は貴方と勝負をする事には參きませんから…… 武「コリヤ爺、お前の家の前に出張つて居る木は何んだ 爺「栗の木で…… 武「下から何の位か 爺「左樣二間もございませう 武「然うか、是を私がヤッと云つて飛上つて切つて見せよう 爺「成程 武「是を切る位な手の中であるならば安心して私を立たして呉れるやうに…… 爺「へエ／＼そんな事が出來ますか、其では拜見いたしませう」そこで武藏先生驅出して刀を持つて門口へ出たが、ヤッと云つて飛上り、樹の下枝を切つて落した 武「どうだナ爺 爺「成程、是はどうも恐れ入りました、是ぢやア天狗樣が出ましても差支へない、大方那の天狗も貴方のお仲間でせう 武「馬鹿を云へ、是だに依つて安心して呉れろ…… 爺「それで私も安心致しました、そこで旦那に申しますが、二里八町の松原を往きますと中程に女夫杉と申しまして杉が二本並んで立つて居ります、杉の女夫だらうと云つて近所の者が名を付けたのでありますが、其の女夫杉の近所へ天狗が出るさうでありますから、お氣を注けて入らッしやるやうに…… 武「イヤ千萬忝けない、其ではソロ／＼出掛けよう、三十町も歩行たら日が暮れやうかな 爺「左樣三十町も御出でなさいましたら日が暮れませう」そこで武藏先生勘定を拂つて暇乞をして此所を立出でましたが、一杯機嫌でブラリ／＼と小謠を唄ひながらやつて參る、果して松原へ天狗が出るや否や。



書畫用 絖絹
京染呉服商 たまや出張店
京城永樂町二 電話一一九六番

小兒科 內科 中谷醫院
京城大和町三丁目(不老泉消川端)
電話一〇三三番

五月廿一日九星
舊四月二十日戊午
本命四緑 戰除大安

一白●迂路〳〵した事有日新事具合北方は吉 二黒●五黄●氣乘らずの事有日新事手控萬事 三碧●盤け妨なし▲六白●平運の日さ申せども新事 四緑●日の方吉萬事有難は害なし▲七赤●根氣肝の事有日新事手控萬事は吉又散財を防がるべし▲八白●厄介至極の事有日新事手控萬事は吉一切の判事を禁ず▲九紫●程よき日轉居旅行入門名…

愛らしき處女の囁き
(ニキビが取て急に美人となる)

オヤ／＼驚きましたネ、アナタは私と同樣ニキビでお困りでしたが今は痕跡もなくキレイに取れて色が大層白くホントに美人にお成ですネー體ドウしたのですか『ハイ實は藥學得業士金澤殿氏のラスターと云ふ內服藥が大層良いと聞き早速用ひましたらコンナニ成りました元來顏面にニキビ吹出物オデキを生じ其等は皆ドス黑く穢き斑點のある等は體內に原因するものなれば內服藥にて治療するを正當とすラスターは此等の皮膚病に良効ある內服藥にして同時に胃腸を整へ身體を健全とす注文は三十錢郵券十枚封入して東京下谷區上根岸町百十一番地金澤藥局へ申込む時は直に送藥すべし

わきが
驚嘆すべき化學劑の創製

暖い間潜んで居たわきがも發散の陽氣となりたるが本病は自分の鼻より人には十倍廿倍の異臭を與へ蛍の如く甘き新婚夫婦さへ嫌になる位である如何に天才青年でも又は花の美人もわきがの爲め一生不成功に終る實例は少なくない實に同情の至りである由來本病の根治は殆んど不可能とせられつゝあつたが有名なる本郷順天堂より始めて發表せられし治療藥は强力なる化學製劑にして全治根治の多數感謝狀には記者は實に驚異の感に打たれた今が治療の好時機であるから同病者はハガキにてスグ東京本郷區竹町四本郷順天堂へ申込密封で送つて貰はれたがよからう

家傳靈藥 ぢの藥
●痔疾一切●大重症之脫肛●痔瘻等現狀の儘治療する家傳靈妙藥有『ハガキ』で申込おれは病原理由自宅治療法の書冊進呈す
●東京京橋區豐町 小松盛林堂
●御買求の際は小松ぢの藥と指命乞ふ

胃病新藥 マーゲン
胃病快治法(書冊進呈)
約特店 京城南大門通二新井藥房
大阪市本町五丁目 田畑保壽藥房

朝のクラブ齒磨は
終日精神を爽快ならしめ
著しく御公務上の
能率を增進す

クラブ齒磨は
化學的に
齒を强く美しくし……精神を爽快ならしめ……頭腦を明晰にする……理想の齒磨
として……帝國醫科大學……各醫學專門學校を始め……醫學者間に最も原き信用を有す

やッぱり 守田寶丹が一番よい!
時代と共に色々な清凉劑が流行するので迷ふ人もあるが懷中藥としては品質本位の守田寶丹が一番よい
本舖 東京下谷區池ノ端仲町 守田治兵衞 振替東京二九八五番

總督府許可
人蔘エキスは下記諸病に特効あり御愛用の上精力を增進せられよ

特効能
神經衰弱、老衰、腦病、肺病、痔病、子宮病、胃腸等皆云ふ不良より起る諸病外用に使もよし

定價
金三十五錢
金六十五錢
金一圓二十錢
金二圓

開城白蔘尾蔘大販賣
人蔘製藥 人蔘菓子飴 高麗細工一切 朝鮮土產一切
製造發賣元 津村兄弟商會
京城本町二丁目郵便局前 電話一四八〇番

第三版

京城日報

廿日朝刊 (夕刊と合せて八頁)

本紙定價 一部金三錢五厘 一ヶ月金六拾五錢 郵稅一ヶ月金拾五錢 (郵送に限り) 郵稅共三ヶ月金壹圓九拾錢 六ヶ月三圓七拾錢 ▲郵券代用二割增

廣告料 ▲五號活字一行金七拾錢 ▲記事欄內一行金壹圓五拾錢 ▲指定の所一行金拾錢增 ▲三號活字の一行は二號活字同樣 ▲六號活字の一行は五號活字同樣

發行兼編輯人 奧田直毅 印刷人 小川三之介

太平通一丁目 發行所 合資會社 京城日報社

電話番號 編輯 長三四五番 營業 長三六番 二二四番 一六六〇番 振替貯金口座 京城三〇〇番

▲十九日後場(米國取引所寄付)…中限 一三、三三 先限 一四、〇〇

寄付 十二圓十一錢 後場 止〆 十二圓十錢 十九日の七月限

五月限 三千五百五十石 六月限 四千三百石 七月限 二萬四千八百五十石

總督訓示
税關長會議に於ける

客歳税關長會議以來滿一年にして玆に亦各位を會同し、連日適切なる答申を得て關税行政及び貿易關係事務に渉り仔細に聽取し得たるは本總督の滿足とする所也。產業奬勵の効果逐年貿易上に現はれ、最近兩三年間輸移入額漸次減少し輸移出貿易の發達特に顯著なるものあり。今之を大正四年の實積に徵するに、輸移入額の減少せる所以は、歐洲戰亂の爲外國品の輸入杜絶したると、米價低落の爲外國米及び滿洲粟の需要を減少したるとは、其の主因たるべしと雖、朝鮮產業の開發に伴ひ、日常需要品中之を國外に仰ぐの必要なきに至れるもの亦少からず。又輸移出額の增加せる所以は、軍需品供給の如き特殊事情の存するありと雖も、尙其の以外に於て著しき增進を示せり。就中最も增加せるものは朝鮮主要產物たる米穀にして、其の他の貨物に於ても輸移出額著しく增加し、且つ近來一般貨物の漸次滿洲支那地方に販路を伸暢し得るに至れるは、畢竟產業奬勵の効果にして、各位と共に欣幸とする所なり。

始政以來產業を振作して、外來品を防遏し、進んで輸移出額を增進せむことは、夢寐にも之を忘らずと雖も、之を奬勵せむとせば、先づ其の生產品の販路を講究すること最も緊要なり。頃者內地に於ては歐洲戰亂の影響に依り、對外輸出貿易旺盛を極め、各種の工業勃興して、其の材料を朝鮮に求むるもの漸次增加せむとするの傾あり。之れに加ふるに支那、印度及び南洋方面との貿易亦前途好望にして、將來朝鮮の輸出貿易を促進するの機運に在り。是れ朝鮮生產品の販路を擴張するには絕好の機會なり。今次各位の答申に依り、地方產業の施設上參考に資すべき事項少からざるも、各位は貿易關門の鎖鑰を握り、對外事情に通曉すべきを以て、今後一層內外事情を精查し緩急機宜に適ひ、克く地方當局及び商工業機關と協心戮力、以て前述の趣旨を貫徹し著實なる進步發達を圖るべし。

漁業の奬勵に伴ひ、漁獲物漸次增加し、斯業の發達顯著なると共に、內地より出漁する者亦近來其の經營規模を大にし、從前と異なるに從ひ漁獲物運搬の方法一變し、之に對する關稅行政上の取扱は依然併合前の日韓通漁條約に基く慣例を踏襲せるが故に、自から現今の狀態に適合せざるものあり。之を以て近く其の改善を行ひ、水產及び海事行政との關係をも參酌し、克く關稅行政の目的に副ふと共に、漁獲物運搬上の利便を計り、水產業の發達に資せむとす。然るに當業者動もすれば法規の觀念に乏しく、放縱に流るゝ虞なしとせざるを以て、將來新法規を發するに際し各位は充分斯の弊害を矯め、如上の目的を達せむことに注意すべし。

通關の迅速を計り、商取引を敏活ならしむるとは、卽ち貿易の發達を期する所以にして、從來屢次注意を促せり。由來稅關事務は槪ね其の手續に屬し、半は現業的事務なるに依り、主として取扱官吏の熟練に待たざるべからずと雖も、多年の取扱は無意識に慣例を爲し、充分法令の精神を究めざるが爲、却て事務簡捷の實を擧げ得ざるものあるが如し。各位は平素部下を指導し、克く法令の精神を咀嚼せしめて、實地に活用せしめむことに努め、日常實務の當否を察し、勉めて繁冗を避け、著々事務改善の實を擧ぐることに留意すべし。

貿易統計は、之を世界に公表して經濟及財政上の資料と爲し凡百の施設計畫之に基くべきを以て、最も正確にして且迅速なるを要す。故に其の材料を提供する稅關に在ては、常に審查を細密にし、苟くも誤謬遺算なからむことに努め、徒らに往復を重ね敏捷を缺ぐが如きことなき樣特に注意を要す。

官紀振肅に關しては屢 訓示する所にして、既に嚴守せらるゝこと、信ずるも、稅關官吏は常に貿易業者に對し直接し、且つ犯則に對し臨檢搜索を爲し、處分を嚴行するの職務に在るを以て、特に官紀の振肅なるを要す。各位は一層部下を督勵して廉潔を旨とし、其の品性を向上し嚴正を保持することに努むべし。

三道隨行記
中島生

四、彈琴臺

○總督は忠州郡廳に於て、細さに行政事務を檢閱し、一堂に參集せる內鮮人官吏、團體代表者、兩班儒生、其他一般有力者を引見し、熱心に諄々として懇篤なる訓示と注意を與へ、更に衞戍病院、裁判所、憲兵分隊、面事務所、守備隊、郵便所等を巡視したる後、邑を距る北方一里なる彈琴臺の古蹟を訪ふ。

○彈琴臺は漢江の本支流交會の地點に在り。一名犬門山と稱すれども、山と云ふ程に高からず、臺と呼ぶを適稱とす。東京の近郊なる鴻の臺と趣き相似たり。但だ彼は平野の中に在り、此は山岳四周の間に在り。其の佳景たるに於て彼は到底此の比にあらず。

○山上に一臺石あり。傳へ云ふ、是れ卽ち伽耶國嘉悉王の時に當り、樂師于勒が、伽耶國の將に滅びんとするを豫知し、樂器を抱いて新羅に歸化したれば、眞興王大に之を愛し、于勒をして居を忠州に卜せしめ、法知、階古、萬德の三名を選拔し、法知には琴を、階古には伽耶琴を、萬德には手舞を修習せしむ。而して于勒餘暇ある時は、常に臺上に座して琴を彈ずるを以て、恒例とせり。故に彈琴臺と稱するに至れりと。

○山上の東北に當り、小窪を隔てゝ堡壘の殘存せるを見る。こはこれ文祿の役に於て、當時の勇將申砬が、加藤小西の大軍と健鬪し、山上の守りを支ふる能はず、此堡壘に退却死守したれども、猶之を保つ能はず、部下の將卒は此堡壘を脫して、或は漢江を涉りて走り、或は江水に溺れ、申砬は敗殘の將卒と共に、竟に戰死を遂げたる處なり。

○山上には樹なく、只春草滿地、眺望を遮るものもなく、眼界太だ廣濶なり。山岳連亙せる間、漢江は帶の如く、曲折迂回して二水を爲す所、卽ち彈琴臺なり。臺下は百尺の懸崖にして、深潭紺碧を湛ふ。江水悠々風帆無心に去來す。萬目悉く青き初夏の天地、起ちて四顧すれば、落日江山直ちに詩懷に入り、座して耳を澄せば大空の雲雀樂を奏でゝ已まず。山容水態洵に名勝たるを失はず。但だ憾むらくは余に詩筆なく、好風に接するも景を敍する能はざるを。

○均しくこれ彈琴臺、然かも往昔は歌舞宴樂の地、後には壯烈悲痛の戰場たり。琴を奏づる所、青草は錦繡たりしならむ。劍相擊ちし所、流血の化して躑躅花となりしならむや。漢江の水千古に流れて盡きざるも人事興廢常なり難し。將軍今日來りて此の古蹟を吊ふ。夕陽將に沈まんとして江心風冷か也。總督感慨の深きものあるか、低徊顧望靜かに吟懷を遣れるが如し。

○日將に晡れむとす、一行は山を下り、直ちに邑內に歸り、總督は湊判事の官舍に入る。

○此日忠州にては、總督に隨行して京城の記者團少くとも四五名は來るべしと豫期し、宿舍も其々準備して來著せば官民聯合の大歡迎會を催ふすべく、今か今かと待ち居りしが生憎にも京城よりは小生只一人の來りしのみ、大邱より朝鮮民報の久納君は夕刻來忠。此の兩人が主賓として其夜末廣に招待せられたる始末にて主人側の諸君は定めて物足らぬ感をせられたるべし。而かも主客五十名の盛宴に連なり、親しく官民有志と膝を交へ、歡談裡に余が見聞を廣むるを得たるは望外の幸なり。玆に深謝の意を表す。

我學界偉人の大講演

■三十餘年間苦心の結果廣文庫を著述したる學界の恩人にして且つ偉人たる

■文學博士物集高見氏＝は特に我社の乞に應じ

■廿日午後四時〃南山町高等女學校に於て

■日本文化の淵源＝の演題にて大講演會を開催す

來聽者へ注意

一、講演は正四時三十分より開始すること

一、靴及護謨草履の外は會場入口にて包紙を用意し置くを以て各自下駄草履を包みて會場內へ携へられたし

一、火災の怖れあるを以て會場內は喫煙禁止のこと

一、滿員の際は不得己入場謝絕するに至るべし

來聽隨意＝京城日報社

隨鷗吟社七言絶句聯句
五月十四日於上野鶯溪伊香保樓

一陣南薰萬綠緊 山間啼過雨餘
村醪誰敎阮精開 青眼仍有殘紅落
酒醒新樹夾樓吹 嫩寒東山風
色醉中看 淡漲染得徐家筆 不
道與來詩句雜 隔紅塵別一區
亭榭上鳥聲閒 幽情無限鬪詩
地 能破傲顏 雅會恰開新
綠天 圖花石小泉 鬪詩依舍
判優劣 我無才如少年 樓枕濟
池柳萬條 紅塵不到雅懷饒 山日長
只聽風流話 張緒當年想世標 詩
酒又追風月交 此情未可等閒拋
綠陰滿地淸和節 枝花蕭槐臺出柳
梢 酒痕紅濺舊青袍 白憶昔遊道
氣豪 誰識詩人太多事 業頤沈醉
聽松濤 水木淸華雅賞多 何來一
鳥掠簾過 綠陰深庭南華夢 覺後
之心浩有餘 石泉槐火雨前茶 舟初
夏新陰實消家 鬪句緣時已過午
闕事斷地破喧嘩

京日詩壇

○前詩有未能悉吾意更賦一律以壯冀行　成島鶯村遺稿

斯遊豈只爲汗漫。踏査名山極大觀。古木陰森絶人跡。深潭紺碧有龍蟠。雲含冷氣皆常濕。雪映晴空眼欲寒。好是他年經勝後。何嫌露臥又風餐。

評曰 君曾橫斷白頭山脈、其詳實況。故以繪色寫發、能稱精緻、氣勢盤空、詞彩射眼。

○次鶯村兄見贈韻　成田 磐石

北望長白路漫漫。細地圖成仔細觀。自昔深山猿虎伏。于今大澤蚖蛇蟠。丈量邊境事非易。露臥朔雲身恐寒。聞有丹蔘凌百藥。請君採得備常餐。

評曰 以奇筆寫幽境、令人恍然置于天風蓬勃間、七八情意深厚。

○送松田學鷗之太白山次其留別詩韻　齋藤 三寅

不管天涯歸雁呼。側身千里涉崎嶇。登碑硯勒邦界。願吟峰巒展陣圖。仙窟須擒咆虎子。神池要奪蟄龍珠。蓬萊石枕深林裏。負得吟囊五尺軀。

評曰 險奇怪譎、一種異彩。

日報俳壇
雄子郎選

燕

燕や庭木の中の車井戸　義 明

燕や汽車に見て過ぐ荷任地　同

開閉になやむ大戸や軒燕　同

燕にあはれ瘦馬挽く臼よ　東 村

搗きし後の腕のなに知る燕　同

流木に立ちし燕や風も無し　同

燕や塔下に珠數を賣る小店　容 堂

大繩を綯へる河原や燕飛ぶ　同

乙鳥や謎逸馬車行く町外れ　田打夫

乙鳥や畫も灯せる醸造倉　同

河床高まり行く洲ひろがり飛ぶ燕　坡 柳

壁の煤ふり行く燕來初めたり　同

燕や山に偏して町成せる　北 星

燕や驛を恃みの馬車問屋　同

燕とぶ庭や塔の影堂の影　虚中子

燕や草食足りし牧場牛　同

一大雄飛の時代來れり 滿載記事悉く活文字

實業之日本

□(懸賞發表)當商略 …是れ商店經營者必讀の一大秘訣…

□十五大會社の一員採用法 △各社の異つた要求 △容貌の良否は如何 △試驗の嚴重な會社 △實讀の試驗法 △體格檢查如何 △給料は凡幾何　浮田博士

□處世十訓(二)…璵川

□人造肥料事業と人物 / 有利なる除蟲菊を栽培せよ…戲相子

□淸富者たる道…增田社長

□動中靜の修養…新渡戶博士

□人間の本分…澁澤男爵

□余の子弟訓練法…日比谷平左衞門

□經濟特使阪谷芳郎男…猿面冠者 / 猫に小判の臺灣研究所…後藤男爵

□立誌美談奮鬪の人…海の鄉人 秋素

□保險界の怪物各務鎌吉氏…

□摩擦療法 頭痛持は此簡易療法を行へ…櫻田醫學士 / 小資本にて果物店開業法…記者

□大繁昌商店の待客法 …是れ當今小資十五大商店の實例也…

五月十五日號 一冊十三錢 郵稅一錢五厘 半年冊共一圓八十五錢 東京京橋 實業之日本社 振替東京三二六番

日韓書房
新版報告

浮城物語　矢野龍溪著　定價九十錢 送料八錢

禪學入門　秋野孝道著　定價七十錢 送料六錢

舞扇　長田幹彥著　定價九十錢 送料八錢

新々英和辭典　三省堂發行　特價一圓 送料八錢

病的性慾及生殖器　羽田ドクトル　全　定價一圓六十錢 送料八錢

京城本町二丁目

銀行會社 官吏鐵道 員養成講義錄

卒業者は各自希望通東京は勿論全國へ直に就職せしむ 速成四ヶ月卒業食費武圓八拾錢 校則進呈 東京芝公園 大日本國民通信學校

現代信書研究界の耆宿として定評を受けたる神戶高等商業學校教授 中川靜著 (布裝美本 全武冊) 定價各金壹圓八拾錢 送料各拾武錢 揃武拾錢

數年研鑽の結果玆に本書を公にせられたるは誠に界の痛快事たり 請ふ速かに一本備付の榮を賜へ

信書精鑑

○五千部限特價 二冊揃ひ武圓九拾錢 送料四拾五錢

著者中川教授は信書文學に沒頭せらるゝこと茲に十數年而して後同先生多年の研究は今回此二卷を完成せらる大作前に比なく これ誠に既刊書翰文書中の王冠たり

本書は實に上下二卷より成り上卷は各種の信書に關する組織並に各局部の組織形式の語句用法の慣用語集の立案手續の整理法の事項に關し適當に比喩を解說し下卷は季節の間候の通告の人事の要件の七門を經とし親交の社交の商務の公務の四性を緯とし直に之を卅九種に分ち各種とも作成要項の語料の例文の模範等の各項を設けて叙說井然たり加之其叙述は極て懇到其文章は特に洗鍊せられたるを以て雄健の氣卷中に描溢せるを見る蓋し近來の名著にして實務家並に信書文研究家の好伴侶たり

特價提供

發行所 東京日本橋本石町 大阪東區淡路町 (振替口座)東京二八〇 大阪四三〇 寶文館

堀井謄寫版

堀井を冠せるもの斯界の白眉なり 粗惡なる模造品に迷はさるゝ勿れ

京城南大門通二丁目 (堀井)謄寫堂京城出張所 電話四〇二番 振替口座京城一〇五八番

少女世界

□少女に對する希望…沼田笠峰

□人形の更衣(お伽小說)…巖谷小波

△國語の學び方…芝金敎諭

△合作小說 金の鍵…岩崎千代子 佐野都梨子

△途に見ぬ都(歷史物語)…山內あきを

□お姫樣の心…記者

△孤島の怪聲(活動寫眞)…西村花心

△ねむり江の心(少女小說)…小林都鶴夜

□謎の短册(秘密小說)…黑田湖山

お嫁にゆく前に(茶話) たまねさん / 理想の少女(秀彥) 下駄の脫ぎ方(齋藤) / 責任の感念(弘城) 天稟の美しさ(修三)

定價二十錢 郵稅一錢

少年世界

□黑王白象(お伽小說)…巖谷小波

△三色旗の蔭(戰爭小說)…下位桃太郎

□魔の居る森(探險小說)…江見水蔭

△青島の俘虜(軍事雜話)…筑紫次郎

□戰爭と平和(軍事訓話)…島村大將

□怪峽の奇遇(冒險小說)…黑田湖山

△金塊(科學探險)…海賀變哲

△少年アルプス(少年小說)…松原二十三階堂

△素敵滅法界(滑稽小說)…海賀變哲

□黃金の鎚(冒險小說)…阿武天風

□臺灣土產噺…さとみ

□お伽問答…なみ

定價二十錢 郵稅一錢半

お待兼の六月號出來 東京本町 博文館

代理店 京城黃金町三丁目九八番地 吉田謙造

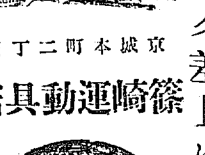
●亞鉛鑛石高價買入

御照會被下候得ば最も御便利に御取引申上候

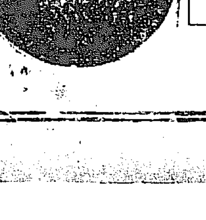
廣島市水主町 平尾雅次郎商店工業部買鑛課

電話 (長)二二三番 二〇七番 (園)二〇六三番 二九六番

□カタログ差上げます□



京城本町二丁目 篠崎運動具店



□運動具は京城シノサキへ□

記者養成新機關

新聞講義錄

記者志望者の一大福音

日本に始めて出來た新聞學の講義錄也

會長大木伯 本會賛助員及講師は一木內相、尾崎法相、高田文相、其他中央有力なる各新聞社の社長、主筆等

記者出身の各大臣を始め中央有力なる各新聞社の社長、主筆等

○新聞記者には誰れでも成れる乎? 成れる! 僅か半歲(速成科が一ヶ年)の本會講義錄講習に於て誰でもなれる。來れ青年立身出世最近道

內容見本 會則 東京市牛込矢來町十二番地 大日本新聞學會

○不換紙幣流通と懇願

上海の商務總會にては十七日政府に向け不換紙幣流通は困難なるに付速かに萬全の策を講ぜられたしと懇願せり（上海特電）

○陸徵祥へ靜養賜暇

外務總長陸徵祥が病と稱して辭職せるに對し十七日閣議を以て陸に一箇月休暇を與ふるに依り意を安んじて養生せよ其の間曹汝霖に外交總長兼任を命ずと宣布せり（北京特電）

○封鎖問題交渉内容

英輸入額の數字を提示して回答

海上封鎖問題に關し其後英米との間に更に交渉行はれしが米國は最も深厚なる友情を表明し米國の正當なる貿易が被りつゝある損害を除去する爲め英國は相當の手段を採るべきを期待すと明白に通告し英國は其回答に於て中立國の海上貿易に及ぼす迷惑を輕減する爲め自國の採りたる方法を概説し米國の貿易に與へたる特別の取計らひを敷へ且つ米國貿易の利益が英國の其れに比較して同等又は其れ以上なる事を證する輸入額の數字を提示し尚捕獲審判所判決の遲延は米國人側が種々なる主張を提起するに由ると指摘したり（倫敦電報）

○ヴ要塞獨攻撃失敗

巴里來電＝十七日午後發表の公報の主要點はヴエルダンに於て其の後行はれし獨軍の攻撃の失敗に終れる事なり即ちモルトンムの尖端にて行はれし敵の擲彈攻撃は全然失敗に歸しレヤウモン畑地に對する攻撃も同じく無効に終れり尚ミユーズ河兩岸及びシヤムペイヌの砲戰は依然繼續せり（倫敦電報）

○經濟調査會

各委員聯合會開會

經濟調査會にては十九日午後二時より首相官邸に於て金融貿易産業の各委員聯合會を開き大隈會長武富河野兩副會長以下出席對支金融機關の整備即ち日支滿洲兩銀行設立に關する件を議題とし森銀行局長の説明ありて散會したり（東京特電）

○大井憲太郎氏

大井憲太郎氏は壹岐丸にて十九日夜釜山着大池旅館に投宿せるが二十日午前十時三十分發列車にて京城に向ふ筈（釜山特電）

○朝鮮製紙問題

朝鮮紙製造の奬勵に就ては既報の如く京城商業會議所が總督の意を享けて當業者を集會し打合す所ありたるも資金の供給と製品の統一とに困難なる點ありとし追て他の同業者と協議したる上回答す可き旨を報道し置きたるが朝鮮製紙の前途は頗る有望にして内地に於て到底製造し得ざる純楮紙の如きも殆んど無盡藏に原料を有し居れば若し心ある資本家にして相當資金を投ずるに於ては逐次發達す可きは瞭なり只技術者の不足を憂ふる者あれども工業傳習所の製紙科を卒業したる者既に五十餘名あり毎年又數名乃至十數名の卒業生を出し居り是等は何れも純内地式の製紙法を習得したる者なれば此等を中心として各地方に製紙講習を開くか或は是等の卒業生自身をして製造せしめ補助金を與ふるも亦一方法なるべく朝鮮製紙業の問題は未だ多く世間に認められ居らざるも近き將來に於て必ずや社會の注意を喚起するに至る可しと

○鐵道線路測量

汗浦海州間五十一哩

京義線汗浦より黃海道廳所在地たる海州に至る五十一哩の線路測量を爲す事となり十八日永田技師外一行出發したるが終了歸任は來月上旬の豫定なりと

○忠北の鑛産額

近時世人の囑目頓に加はりたる忠北に於ける各種産鑛物中金、砂金、黑鉛等大正四年末現在の産出額を見るに現在鑛區總數百十三個所の内現在採掘中に係るもの三十八鑛區のみなるが金鑛に於ては採掘鑛價額永同郡の二十六萬七千餘圓を最とし槐山郡十一萬六千餘圓之に亞ぎ總計重量百十三匁四十三萬一千餘圓砂金に於て清州郡の五萬六千餘圓沃川郡の七千圓等にして總計（二十七貫）六萬四千圓餘黑鉛に於ては報恩沃川の約一千噸七千餘圓にして合計金四十七萬二千六百圓の多額に上りつゝあるが最近鑛熱として勃興し來りたる鑛山熱の影響を受け本春來現在未著手の各鑛區發掘に著手せられつゝあるもの多數なれば本年中には産出額優に百萬圓に達せん見込なりと（清州）

●臨益水利事業●

竣工五年間の成績

全羅北道の臨益水利組合は蒙利區域三千町歩朝鮮に於ける第一著手の水利事業として現不二興業専務藤井寛太郎氏組合長となり明治四十四年竣工せしも昨年までに各般の資金として金州農銀及び▲東拓金融部より借入れし組合債元金三十八萬七千五百圓に上り既に豫定の如く償還を終りし元利均等償還金十三萬七百圓なるが今後も年々組合水税を徴し大正十九年度迄に全部償還を終る豫定の由而して其の成績に付藤井氏の談と聞くに單に組合地域内に於ける未墾地開墾のみを見るも明治四十四年通水開始と共に水源地腰橋堤の水量豐富なると知られしより非常の速度を以て行はれ苟くも開墾し得べき土地は寸地も剩さゞるの勢ひにして大正四年の如き三十四町歩餘の開墾を見最初よりの開墾面積實に四百廿町四反に及び今や區域内殆んど荒蕪地稀れなるの有樣なり翻つて組合事業の主眼たる灌漑成績如何と云ふに

▲水利の効果 は益々顯著にして甚雨三年の如き全北平野一般旱魃の叫び喧囂を極むる旱魃の間にありて潤澤なる用水の灌漑を受け悠々農事を進むるの幸福は往年一大旱田として其の荒蕪に苦しめる有樣に想到し眞に今昔の感に堪へざるものありと今や米穫の改良は全面積に兩三年前殆んど普及し臨益米の聲價益々昂く創業以來組合の理想とせる小作人の副業繩叺の製造は全く實現せられて其の年産十數萬を以て算し著名なる一大産物たるに至れり如斯にして組合設立の目的は充分に達せられたるも之れを

▲區域内三千町 歩の米作實收額に顧みるに内地人各農場模範作の如き一反步の收穫糯優に六石を越ゆるに拘はらず全區域の總收穫平均は一反歩僅に二石五斗に過ぎず濟々盡きざる水利の恩惠は尙ほ未だ掠奪農法の結果痩瘠を極めたる地力を恢復せしむるに至らず結局有機質肥料の施用と土地の深耕とは組合員の一日も忽る可からざる最大要件なりと雖も貧弱なる小作人の力は到底急速なる改善の實を擧ぐる能はず僅に紫雲英苅大豆の如き綠肥は代金を要せずして

▲貴重の肥料 を得らるゝに依り極力之れが栽培を奬勵しつゝありと雖も諸種の障碍は其の成績を理想的ならしめず乃ち水利の効果をして完全の域に達せしむるは前途尙ほ遼遠なるに似たり然れども貯水地を利用する養魚其他の事業は年と共に益々發展して以て聊か當局官憲の指導に酬いん事を期し居れり

●勝田總裁の經濟演說

支店長會議に於ける訓示

二、國際變局と日本の財界

▲正貨流入巨額 翻つて我國の現狀を見るに多年正貨流出問題に苦心せるが、今や俄に正貨の流入を見其蓄積約五億五千萬圓の巨額に達し、從つて貿易其他の産業も極めて順調を呈し、日本に於て外債を引受くるが如き破天荒の現象を生じたり。但し此の正貨を如何に處分すべきかの問題に就て、政治上財政上經濟上種々の考究を重ねつゝあるが如きも、未だ根本政策として徹底せる意見あるを聞かざるを遺憾とす

▲工業發展の機運 尙我國の工業も大なる發展を爲しつゝあるが、遂觀上工業の多數は軍需品に關するものと見て差支へなかるべし。

但し大工業に至りては未だ充分なる發達を爲さゞるが如し。蓋し資金あれども原料及び機械は是を輸入に待たざる可からず。而して一方船腹不足の爲め今俄に大工業を起し難き狀態にあるが如し。此れ政府が船腹不足問題につき經濟調査會に諮問する等要するに我工業は概して内地にて原料を得機械を得らるゝものに限られ居るも、戰爭の影響に依り此等の工業が良好なる効果を收め大なる發展を爲しつゝあるとは疑なき事實なり

▲新進富豪の崛起 尙茲に一言すべきは日本富豪の性質が從來と一變せることゝ是なり從來は所謂政商たるか又は土地價格の騰貴等に依りて巨萬の富を得たるが如きもの比較的に多くして、眞に事業の爲め奮闘努力の結果富豪となりしものは寥々たるを免かれざりしが、今日は定見ある實力を以て奮闘したる結果富豪となり又なりつゝある者甚だ多く然かも此等のものは多くは三四十代の新進氣鋭の壯年に多きが如し此は我國に於て頗る興味ある現象にして吾曹は此を以て吾財界の一新起源を劃する時期にあらざるかと考ふ

▲實業青年の覺醒 次に又喜ぶべき現象は從來學業を終へたる青年中最も有爲のものは先づ官吏たらんことを希望せしも、政界其他財的事情の爲め、或は三菱三井、日本銀行、正金銀行等の使用人となり、實業界に入らんとするもの多き傾向を生じたり、然れども未だ有爲の青年にして使用人的根性を脱し自ら奮つて國家の爲に商工業其他の事業に當らむとするもの殆んど之れなき狀態たりしことは有識者の私に慨嘆しつゝありし所なるが、今回の戰爭の結果として此の獨立獨步の空氣釀成せらるゝに至り、有爲の青年にして獨立奮闘して自ら商工業を興さんとするものあるを聞く。斯の如く青年に活氣を生ずるに至りし現象は喜ぶべきことにして、是亦時勢の進歩と共に、戰爭に依り受けたる好影響と稱すべきなり

▲國際問題と日本 次に我邦の將來に就き一言せんに、以上述べたる根本問題は總て未知數なるも大體論として國際問題は容易く解決せざるべく又多年紛糾を來せし支那問題も其解決極めて困難なることは之を豫言するを得べしと信ず

▲戰後日本の財界 次に予の信ずる所に依れば戰後の日本貿易は恐らく逆潮にして正貨の流出を見るの恐なきにあらず。朝鮮銀行も今日より正貨準備に付心勞する所なきも、兩三年にして再び此の問題に關し憂ふるの時至るやも知れず。依て我々は大なる覺悟を以て其準備を怠らざるを期すべきなり、又一面に資本の不足を感ずる時期に逢著すべし。是れ蓋し歐洲戰後の復舊改良擴張等の資金が巨額に上り、我國に於ても内地の産業又は貿易上巨額の資金を要すること明にして、結極資金缺乏を來すを免れざるべし。此等の大體觀念を腦中に置き仕事に携はるに非ざれば、終局の成功を收むること困難なるべければ、是等の諸點は尚諸君の常に研究を怠らざらむことを希望す

●鮮米輸出請願

仁川精米業者が曩に協議の結果仁川商業會議所の援助を請ひ其筋に對し鮮米の對露輸出を計る件に關し請願の事は既報の通りなるが同業者間の熟議愈々成り十八日付を以て仁川精米業組合長奧田貞次郎氏より商業會議所へ其の筋に提出すべき請願書の進達方を依囑したるが右に付き商業會議所にては近々役員會を招集し本件に關し審議を爲すべしと

●露國大使入京

新任駐日露國大使クルペンスキー氏一行は定時よりも一時三十分遲れ十九日午後十時十五分南大門驛著入京露國領事館に入れり

●兩上院議員入京

法學博士貴族院議員石渡敏一貴族院議員和田彥次郎の兩氏は十九日午後九時南大門著列車にて入京李王職次官小宮三保松氏の官舍に入れり

●泰川水利通水

東拓にて經營したる平北泰川水利事業は今春來施設中なりし殘工事たる毛細灌漑及び諸道路も全く出來し目下揷秧準備と共に頻りに通水を行ひつゝあるが何分新田の事とて用水の濫費夥しく何程か其の灌漑全面積に對する水量不足を感じ農民より一二の苦狀出でしと云ふもこは新田として免れ難き點にして相當時日を經過せば用水に於ては何等の不足を感ぜざるに至るべし

●石塚長官視察

石塚農商工部長官は上林山林課長を隨へ京畿道江華島に於ける林野調査狀況視察のため二十日午前舟にて漢江を下り同地に向ふ筈にて廿一日歸任の由

●兪參與官管內視察

京畿道參與官兪星濬氏は二十日午前出發江華視察の爲め出張すべき石塚農商工部長官と同船にて漢江を下り江華に至り同地より長官と別かれ其より金浦、始興、富川、仁川等郡府廳學校等一般狀況を視察往復約十日間の豫定なりと

○陳其美終に絶命

自動車上より發砲、二名捕縛さる

既電の如く上海に在る革命黨の首領陳其美は十八日午後六時頃一刺客の爲めに狙擊され重傷を負ひたるが今當時の狀況を報せんに十八日午後六時頃五名の支那人を乘せたる一臺の自動車佛國租界十四番地なる滿鐵社員の居宅へ馳せ來りたるが折柄其の家屋内には多數の日本人及び支那人集り居り聽て自動車上の一人は突如屋内に闖入し來り其の場に居合はせたる陳其美の頭部見蒐けて拳銃を放ち猶傍らにありたる支那人にも重傷を負はせたり自動車の運轉手は不意の椿事に怖れを爲し其の儘自動車を驅つて逃げ去りたれば刺客共は追手の者に發砲し乍ら逃走したり爲に通行人中に一名の即死者二名の重傷者を出したるが刺客中二名は捕縛されたり一方陳其美の爲めに直ちに日本人醫師を迎へて手當を施したるも終に絶命したり原因は黨派の關係者なるが袁總統の使嗾なるか不明なり（上海特電）

人事消息

▲岡部築城本部長　二十日午前八時三十分南大門發歸東の筈
▲內田良平氏（黑龍會々長）　十九日夜入京巴城館へ
▲花田仲太郎氏（公州地方法院長）　同上
▲關口半氏（同檢事正）　同上
▲前田信兆氏（光州地方法院長）　十九日夜入京不知火旅館へ
▲外山豐之氏（鐵山衆）　十九日夜入京巴城館へ
▲柴山康平氏（三河物産員）　同上

南善北語

陳其美君がやられた、兎に角北京政府側でも革命側でも大問題である▲革命と陳君とは何うしても切つても切れぬ關係がある▲イヤ革命は陳君の生命である而も革命側でも頗る突飛な方で以前の革命の際なども唯獨り爆彈を抱いて機器局へ飛び込んで占領した無鐵砲も敢てやる男だ▲其の樣な男だから每度やりそこなつた事もあるが何と云つても上海革命の棟梁で支那革命黨中でも重要な人物である▲先達は女乞食の刺客に唐紹儀君が狙はれ▲美少年の刺客給仕に黎元洪君が狙はれて危ない處だつた▲電報簡短で無論詳細は明らぬが此年三十八歲の働き盛りだ何とかして生命丈けは取留めてやりたいものだナア▲妙に此の樣な話しが並ぶが獨逸でも平和主義者が獨逸皇帝と皇太子を狙つて居た▲が幸にして其の企が發覺したとは洵にお目出たい▲戰爭の結末もつかぬ内に大事の勍敵に死なれては折角力んで居る力もぬけるイヤ見物方が落膽するからね▲お目出たいと云へば目出たいかお目出たくないか鳥渡頸を捻るのは佛將マルシヤン將軍の死去だ▲マルシヤン將軍と云ば佛軍中での好將軍である今死なれては矢張り切れない▲英國の新聞が大々的吊辭を揭げたのも最も千萬だが▲やまだ生きて居ると來たので各新聞社ではオヤ〳〵〳〵▲其なら何うして其誤報が傳つたかと云へば頓と明らぬ▲何には兎も角生きて居れば大喜びだ定めて長生きをするのだらう▲其緣起の好い處で一番ヴエルダンの獨軍を追拂ふべしだ踏ん張れ〳〵

木浦

▲朝倉中學生來木　福岡縣立朝倉中學生徒八十五名は敎諭湯下惣一氏外四名に引率[illegible]

▲[illegible]長森川只吉氏は支店長會議出席の爲十八日出發長崎に向ふ▲山野事務官[illegible]

[illegible]なりしが愈々竣工し五月十九日午後六時より[illegible]式並に佛殿開扉を擧行する筈な[illegible]

江華警察署長金達氏は二十日開會の京畿道警察署長會議列席の爲め十九日[illegible]

▲生徒旅行　龍山元町小學校高等科生徒一同は本島の戰跡城跡其他を探[illegible]

五百三十八圓ありたるが之を細別すれば京城魚市場は數量二萬七千二百[illegible]百零五圓なりと[illegible]式會社は數量六千四百貫價格六千[illegible]

[illegible]金の拵據を價格卅十圓のものなりと詐り内金として九圓五十錢を詐取し[illegible]

[illegible]の結果猩紅熱と判明し即時總督府醫[illegible]

二三月暴騰の夏物も今や暴落致し安價の品全部荷揃に相成候に付き來る二十二日より

浴衣地階上陳列會

開始仕候條是非一度御來臨の榮を賜り度奉希上候　敬白

京城本町二丁目
三中井吳服店　電話三十七番　振替五二四番

支店所在地　大邱　元山　晉州

一石炭八十萬斤
右購買ス詳細ハ五月二十日以後ノ朝鮮總督府官報ヲ見ヨ
朝鮮總督府

●移轉廣告
今般舊治療所狹溢の爲左記に移轉仕り尚從前通り診療に從事可仕候間此段御披露申上候　謹言
京城南山町三丁目十三番地（舊治療所向ひ洋館）
橋本齒科醫院　電話二九二番
齒科醫學士　橋本清次郎

早稻田大學二大講義錄

中學講義
恩賜 大隈伯 總長　名譽學長 高田博士 監督
三十年經營
今回大刷新せる本邦無比の講義錄
新學年開始 一 入學最好機
獎學メダル 其他大特典 申込次第見本附規則書進呈
商業講義
速に來り學べ
入學金不要
東京牛込 早稻田大學出版部（電話番町三七四・二四二二）

……市內各所を視察し……日正午發の汽車にて大田に向へり▲……十八支店長 十八銀行當地支店

天安 ▲俳優假舍當竣工……天安邑內には昨年來より……假……泊の上……の筈なり▲金署長出張……乃至二泊の上歸校の豫定なりと▲學……り來り直ちに傳燈寺へ向ひ出發一泊

京畿管內魚市場賣上高を聞くに合計數量四萬二千百八十貫價格四萬六千……格一萬六千二百七十八圓仁川水產株式會社は數量一萬一千二百五十貫價……は文具金物の……をなし居る中……十一月二十一……仁川敷島町日光樓娼妓朱蓮心を欺き御……を彫刻せる……

◎猩紅熱 京城北米倉町洗濯業……原某（二）は十七日發病十七日診斷

◎天氣豫報追報 ……方向東北東……南北道黃海道沿岸……

新任駐日露國大使と本社員に與へし自筆の氏名（十九日夜南大門驛にて）

◎露都土産

劍戟戰は第三期 經濟戰は第一期

獨逸は行く處迄行つて了つた

今後の戰爭は小競合ひ＝大した戰爭はあるまい

佐渡朝鮮皮革常務談

三月當地を出發し露都莫斯科等の各地を巡遊して十六日歸來した朝鮮皮革常務取締役佐渡……氏は語る

最近の事だが露國にゐる大使館員、海陸軍將校其れに英國から來た大使館員、武官も加はり露都で日本人許りの媾和會議が開かれた私も元は軍人であつたのだからと云ふので傍聽さして貰ふ事になつたが何しろ白佛側から露獨側から總ての

戰線を洽く視察

して歸つた武官や交戰國駐剳の大使館員等が敵味方の軍人軍器軍需品の如きは勿論防禦工事や攻擊材料の如き其他各國の政治財政狀況等を盡く知悉しての話なのだから仲々面白い事があるが兎に角會の性質が性質丈けに其內容も餘り詳しい事は言へないが要するに銃劍砲火を執つての殺し合ひの戰爭は現に既に第三期に入つて其れと同時に第一期の經濟戰に入つてゐる經濟戰爭の第二期は今年の秋季で第三期は來年の春である

一方劍戟の戰爭

は正に第三期だから是からは大した事もありはしまい一體ヴェルダンの攻擊は獨逸の大なる策略であつて攻擊開始以前に於て獨逸は米大統領、羅馬法王乃至瑞西等に對して媾和仲裁斡旋に就ての意嚮を洩してゐた其上で威嚇の意味を以てヴェルダン攻擊を開始した然し此攻擊は全然失敗に終つた今日ではヴェルダン要塞はもう決して陷ちない然も獨軍にとつては單にヴェルダン方面のみならず何の方面も攻勢に出る事は不可能である露國側の如き

進めば進むほど

沼澤地方であつて非常に地の利が惡い今後到底獨逸は露國側に向ての進擊は出來ない獨軍はヴェルダン攻擊開始の前に露國のリガ攻擊をする計畫で本年三月頃頻りに其の方面に兵力を集中してゐた然し露軍の防禦が又非常に嚴重で到底陷落の望み無を知り鉾を轉じてヴェルダンに向つたのである其ヴェルダン攻擊が今日の始末で獨逸の將來は手も足も出ないで困つてゐる一體獨逸側の兵力は聯合軍側に比して數が少い其れに今迄

獨逸が非常な勢

で聯合國を苦しめたのは何に據るかと言へば一に交通機關の完備によると言はねばならぬ獨逸の鐵道政策は素より戰前と雖も學ぶべき箇所尠からぬが其れを占領地の總てに施行して行くそれ許りでなく道路を完成して置いて軍用自動車を盛んに活用し一二箇師團位の兵員は自動車で輸送すると云ふ有樣である然し獨逸も最早行く處迄行つてしまつた是れ以上占領地を廣めて行くと云ふ事は或は守備兵の人員にしても經濟上からも總に於て餘に張り過ぎる卽ち占領地が

增加すれば增加

する程苦痛を增す事に爲る卽ち媾和を急ぐ次第である一方聯合國は總ての兵員に於て獨逸より優勢であるけれど軍器、軍需品が不足してる殊に露西亞の如き甚だしいものだが次第々々に軍器軍需品も充實して行き目下頻りに攻勢に出づる計畫中である昨年五六月頃の注文品が昨今英米等より盛んに露都に著し頻りにニコライスク停車場から市中に運搬してゐる總ての製造工業は是れから始められようと云ふのである尚是れ以上に最近に

英米から大輸入

の計畫がある其れは北海のアルカンゲル港を經て輸入しようと云ふので今迄露都から途中迄行つてゐた鐵道を延長した上に複線にする工事を目下捕虜を使用して盛んに遣つてゐるが今月中には竣工する筈だしアルカンゲルには非常に大規模のバラックを建て各方面の準備を急いでゐる來月上旬解氷と同時に之が輸送を開始し英米の汽船は北海を經てアルカンゲルに入るとになつてる北海は人も知る通り六、七、八の三箇月丈けほか使用されず他の

九箇月は全部氷

に閉ぢられてゐるので其の解氷期を利用して盛に輸入しようと云ふのである此樣な有樣だから露國の軍器軍需品の補充も近い內に充實するであらう露國既に然り英佛にても各方面とも今後獨逸よりは餘裕が出來て來る其れで勇氣さへあらば將來に於ては聯合軍側から攻勢に出づる譯だ……の如き有樣であるが思ふに將來の戰爭は單に小鞭り合ひに止まり大した戰爭はなくて濟むに違ひない其後の戰爭ば經濟戰と云ふ事になつて來る評である（つゞく）

◎風采淸楚たる佳賓

新任駐日露國大使一行の入京

新任駐日露國大使クルーペンスキー氏は大使館一等書記官エビソコフ氏を隨へ赴任の途次十九日午後八時五十分南大門著の滿鮮急行列車にて入京の筈の處途中に於いて列車に故障を生じたるため約

◆一時間卅分遲れて

十時二十分著京せり停車場には總督代理として森海軍武官、大屋長官、露國總領事ルッチユ氏同副領事ヘフトラー氏、小松翰長、橫井汽車課長山形大佐、露國敎會パーテル僧正猪原朝鮮ホテル支配人等此の遠來の珍客の入京を祝福すべく出迎へたるあり列車到著するや白茶色の黑羅紗の

◆背廣服に麥藁帽子

白茶色のレインコートの瀟洒たる大使はエビソコフ書記官並びに滿洲より同行し來れる植田滿鐵秘書役、途中まで出迎へたる和田鐵道局參事等と共に下車、森武官、大屋長官、小松翰長、鐵道館員其の他と握手を交換し出迎へに對し感謝の意を表したるのち一瀨驛長の案內にて跨線橋を渡りて貴賓室に入りたるが直ちに總督府より

◆差廻しの自動車に

エビソコフ書記官、森武官、小松翰長と同乘、朝鮮ホテルに投宿の豫定を變更して西大門なる露國領事館に向ひたるが長身肥大の體軀を有せる大使は長途の旅行に更に疲勞の色を見せず櫻色に輝やげる相貌に幾分昂奮の色を漂はせつゝも頗る元氣にて流暢なる英語にて出迎の人々に一々挨拶を交換せる

◆又寫眞班の來襲に

微笑を浮かべつゝ快くレンズに面を向け最も親しみ深き愛嬌を見せゐたるは露國を代表して來朝せる大使によりて始めて意義を生じたるものと言ふべく一般の注意を惹きたり

東京大相撲

△二日目の勝負

十九日午後東京支局特電

勝 負 勝

千葉崎○藤の川 一港○八幡山
龍ケ崎○紅葉川 逆鉾○稻の穗
千年川○宮城山 柏戶○大の川
眞砂石○四海波 寒玉子○朝緑
九州山○鶴渡 栃木山○黑瀨川
伊勢濱○体綾川 太刀山○兩國

▲中入後

大蛇潟○宇都宮
敷島○玉の川
梅川○十州山
小常陸○八甲山
浦の濱○釋迦嶽
大鳴門○岩木山
玉手山（こて ひねり）對馬洋
大錦○石山 朝潮（近江富士）
西の海○鳴門洋

右のうち▼眞砂石に四海波は右差し一氣に寄り切つて眞砂の勝▼寒玉子に朝緑は右四つ朝が下手投を打たんとするを預け寄り倒して寒の勝▼鶴渡に九州山は突合ひ鶴叩きしが利かず右を當てゝ押すを九廻り込み右を差して寄り進み鶴が土俵を廻つて殘さんとするを突き放して勝▼黑瀨川に栃木山は双方の呼吸合はず漸く立ち上るや栃左を當て一息に押し進むを黑瀨土俵を廻つて殘し左を深く覗かせて肩透しに引しが栃外ずや再度寄り進み黑瀨が土俵を廻らんとするを捲き落して栃の勝

▼大蛇潟に宇都宮

は好取組なり宇都が勢込んで突き出す出鼻を大蛇右に差し丁と叩けば宇都前にバッタリ落ちて大蛇の勝は鳴采▼太刀山に兩國は兩何か注文ありてか立合ひに酷く暇取りしが漸く立上るや兩突かけて太刀の差すを外掛けに切懸に行くをトン〳〵と簡單に突き出して太刀の勝

△中入後

敷島に玉の川は玉が潛つて下手に入らんとするを押して敷の勝▼十州山に梅川は梅突き進み十州が土俵際に右手を手操つて廻り込まんとするを突きつけて押し切る▼金の花に稻葉嶽は右四つ稻吊らんとすれば金下手投に寄り進み體を預けて崩れ込むを稻葉打遣りを見せ同體に流れて預り▼八甲山に小常陸は双筈押し切つて小常の勝▼大鳴門に岩木山はトンと突合ひ二本差し岩木上手二本を引いて內掛けに薙んとするを切返して鳴門の勝▼浦の濱に釋迦ケ嶽は左四つ浦合掌に構へて强引に押し出さんとするを釋迦土俵際に掬ひ投げを打ちしも此時釋迦に踏み切りありて浦の勝

▼玉手山に對馬洋

は玉飛び込んで右を差し立て褌を引いて十分に喰下り對馬が右を差して寄り殘さんとするを玉左手を內掛に當て美事に渡し込み玉の勝は大喝采▼石山に大錦は石が飛び込んで突き懸るを錦叩き石の體橫になるを上からカッと押潰して勝▼朝潮に近江富士は右四つ小手投にて朝の勝▼鳴戶洋に西の海は鳴戶左差しに寄るを西小手投を打ち西の勝にて打出したり

△三日目の取組

一港—稻の穗　稻葉嶽—千年川　大の川—敷島　小常陸—鳴戶洋
近江富士—八甲山　梅川—大鳴戶　岩木山—浦の濱　釋迦嶽—朝潮
對馬洋—鶴渡
栃木山—大蛇潟
西の海—石山

▲中入後

四海波—柏戶　玉の川—紅葉川　龍ケ崎—十州山　朝緑—眞砂石
逆鉾—寒玉子　宮城山—金の花　九州山—黑瀨川
兩國—伊勢濱　大錦—玉手山　宇都宮—太刀山

右の內栃木山に大蛇潟は本紙の勝負豫想懸賞角力にて春場所大蛇の負となり居れり

□學界の寶典

群書索引と廣文庫 物集博士苦心の著

‖碩儒の著書を後世に殘したい‖
‖天地萬象殆んどあます所なし‖

廣文庫刊行會にて近く出版せんとする物集文學博士著群書索引及び廣文庫の兩書は日本學界空前の大事業稀代の好著として江湖より熱心期待されつゝあるが右に付博士は曰く初めの群書索引の編纂を思ひ立ちしは和漢の書共に頗る讀み難き爲め之れを讀み易からしめんとするにある、今少し詳しく云ふと日本には

◆古來學者は

頗ろ多い、曰く林道春、新井白石、荻生徂徠、平田篤胤、本居宣長等指を屈するに遑はない、然も其の多くの碩學の殘した著書は怎うかと云ふに其の知得の學識の眞に一分に過ぎぬ殘りの九分は死者と共に地下に空しく埋められて終つてゐる、甚しきは一冊の著書も殘さなかつた人さへある、乃ち荷田東滿氏の如きは國學者の鼻祖で加茂も本居も東滿氏の流れを汲んでゐるのだが其の辭世の時著書は全部灰にして終つた、予は此點を

◆非常に遺憾

なりとし如何にすれば死しても自身の研究學習の全部を殘し得るかに付頭を勞し初めしは廿二三歲の時である、其後著作をなし又研究を續けてゐたが常に最も苦痛とする事は其事物の出典を得ざるにあつた、殊に和漢書佛書の如きは外題の內容を示さぬものが多く且つ國書の如きは寫本にして傳ふるものさへ少なく、あつても得られぬときは況んや事物の書中に散見せる者のごときは

◆悉く其書を

見るに非ざれば得る事が出來ない、であるから古來文學者若くば好學の士が事物を評論し研究するは多く暗中模索の苦勞があり良書の乏しきを歎じてゐた、予も亦此の歎息を幾回ならず洩らしたのであるが、此缺陷を補ひ此の苦勞を救ふには群書を涉獵し其の中より考證になるものをとり蒐め而して一冊の書を編纂するの外はない、と思つて其處に予の研究の歩を進めたのが乃はち群書索引著作の發端である、是には

◆故伊藤公も

故加藤弘之男の如きも其の必要を痛論され其の著手を熱心に勸說された、其他色々感じた事思つた事もあるが爾來古代よりの年表による群著の總目錄を作り之れを讀破しつゝ價値ある部分に朱を引いて其れを一々助手に書き抜かしてゐたが七八年して省みるとまだ所期の二十分の一にも達して居らぬ此の模樣では各方面に渉る十四五萬卷の書を讀みこれを書きぬき事業を完成さすには予は三百六十五歲迄も生きてゐなければならぬ勘定となるそれでは不可ぬからと

◆更に工夫を

凝らした末漸く一書籍から重要な事件のみを指頭で探し出す事とし結局一日に二十卷も進め得たが偖て事物の本源を探究するには日本の書のみにては足らず支那の書籍を要し、更に印度の古書をも一々當つて見ねば納まらなく爲た、コレ研究の勞苦以外に其の書を得るに苦しみ其の書を手にするの資を得るに余の焦慮措く能はなかつた所以である如斯にして幾多の星霜を送り夙に官職も退き群書索引百餘卷の原稿を作つたが然も索引は乃ち索引にすぎず此の書は圖書館の如き藏書家の如き

◆書籍を多く

備へた家にありては其の便利を得るであらうが却つて書を藏せぬ人は書名を聞きて却つて遺憾を加ふる事あり又多數の書中には手近に得られぬものもあらうからと思ひ結局索引の外に索引の項目を土臺として廣文庫てふ事物其の物の要項を簡明に記した書を著作する事にしたのである、だから之れを

◆量から見て

廣文庫は索引の約十倍に上り廣文庫を繙けば天地萬象人事殆んど剩す所なく採錄した積りではある、唯予の微力なる本書の公刊された時尙ほ其の足らざる點を多少は發見するであらうがそは又た追々增補するの外はあるまいと思ふ、予は予の此の卑著により江湖幾分か益するを得ば予の望みは乃ち足つてゐる

五月二十日より 夏衣賣出し
六月一日より 浴衣地陳列會
京城 三越呉服店

◎青年會講演延期 廿日開催の筈なりし南大門通一丁目基督敎青年會講演會は廿一日午後二時に延期せり講演者は小松綠氏にして演題は「戰後に於ける列國の關係と我國の覺悟」なり

京日案內

普通（一回前金三十錢無割引 匿名一回毎に金五錢增）
番外（一回前金六十錢無割引 匿名一回毎に金五錢增）

外務員採用 月給貳拾圓外に步合を給す希望者履歷書携帶本人來談 京城花園町一二三 帝國圖書普及會支部 457

○店員入用 年十六七市內に確實なる身元引受人あるもの 明治町一丁目 高尾商店 467

▼御不用の古本雜誌は是非ウツボヤへ 振替二五七 電話二二參 158

◎藥店讓る 誰にでも出來る鍾路福要の地に有り 希望の御方は南山町巴城館藤吾郷迄 電話二二〇三 459

竹木陶器大理石銅眞鍮化學應用無刀彫刻法傳授 壹圓送れ直に郵送す 大田（大田座前）石原米藏 455

古本無比高價買入 勉強是非御試賣を乞ふ御報即刻參上 京城本町四 電話二七八一番 群書堂 199

新雜誌廻讀會 松榮堂 新古本の貸本の特色 買受交換割引 ◎電話一三七八 京城本町一 430

◎古本なら野村 買入誠實御報參上 京城本町一丁目（明治町筋）電二六三六番 野村書店 142

◎明治町フランス敎會正門前 ◎ホ子ツギ▲うちみくじき治療 ◎電話二五九五番 荒川仁壽堂 180

▲キヤラメルは……滋養に富む ▲京城藤商會の ▲キヤラメルに……限る 413

昆蟲及植物採集用具特價販賣 京城壽町四〇 電話二二七六 回天堂敎育品部 421

◎店員入用 年齡十七八前後市內に保證人を要す當人來談あれ 京城本町一 大阪屋號書店 450

京城春川間 乘合自働車 賃金片道四圓 ◎京城發午前七時◎春川發午後二時 ◎京城水標橋通り 京春自働車商會 電話貳壹參八番 支配人 松田壽男 50

◎高給紳士招聘 業務擴張に付誠實なる人格高き紳士三名高給にて招聘す自筆履歷書携帶本人來談 橫濱生命保險會社朝鮮出張所 黃金町二ノ一八一 465

外務員入用 日本人二名 朝鮮人二名 希望者は本人來談 京城代理店 大阪債券會社 櫻井町壹丁目百五 櫻湯橫 池田

旅館至急讓る 年營業多大の信用並に純益あり主人歸國に付至急格安にて讓る 所在地南鮮道廳（姓名在社）466

日鮮滿巡遊切符讓渡し度し 右當地より安東奉天大連を經て郵船にて門司著終點博多迄期間五十日右御希望の方は本町日本蓄音器商會まで御問合せを乞ふ 電話壹貳八參番

重石高價買入 及鑛山諸機械製作取次 京城南大門外岐阜屋旅館內 電話一五一七 坂本出張所 469

賣家賣地 傳道會社所有土地三百二十六坪平家煉瓦造四十三坪賣却したし望の方は御來談を乞ふ スミス方 貞洞三四 468

婦女家庭內職 簡易上品 輸出品編物です希望者は材料無料貸與す初心者にても相當收入あり 京城堅志洞 電話九四五 江原松鳩 編物傳習所 458

◎材木店開業 杉、松原木各種雜木製材廉賣 京城金町帝國生命會社前 電話二八五一番 兆昌木材店

玄米乳 玄米糖化卒先者にて於東京醸友會關東醸酒大會一等賞受領 細菌學應用純粹糖化の醗物あり絕對無効力 京城新町 414 製乳所 齋藤 電話二八七二番

鑛山用機械類並採鑛用具 マグネット新荷著 京城南大門外 電話二九四〇番 京僧商會 417

本店新製 クリームキヤラメル 大十錢 小五錢 パン元祖 木村屋支店 京城明治町 電話一八七〇 178

東京中川式 懷中電燈 魔法マッチ 卸小賣 電池の强力他製品と比較を乞ふ 黃金町電二九十八 口座京城壹貳九 川合時計店 186

分拆 鑛物各種（正確迅速） 朝陽分拆所 京城太平町二の三〇 424

年金恩給類立替 短期無保險確實 融通地方照會あれ迅速詳報 京城武橋町二三番地 電話二二八三番 京城日報社北方一丁 國江商會 144

◎はねつぎ うちみくじき等 一切の治療御依賴に應ず 明治町 柔術道場 150

佐賀縣人に告ぐ 來る二十八日（日曜）漢陽公園に於て鍋島直映侯歡迎會相催候間未入會の同縣出身の方は此際至急御入會を乞ふ 申込所 佐賀縣鄉友會 幹事 山邊勇輔

岡山縣人 岡崎佐平に告ぐ 國元に急用あり至急歸宅を要す 現住所京城南山町三丁目三宅富治へ報知せよ

農具廉價販賣
一唐箕（三ツ口）十圓五十錢
一萬石（鐵網）四圓
一唐箕（二ツ口）八圓五十錢
一水車（杉、松）十圓五十錢
農具、家具、建具、箱類製造販賣並に大小修繕御用命奉願候 京城旭町二丁目四十二番地 京城木工社 電話三三九番（梅崎工場）

タングステン 用鑛山機械及マグネット中根式手廻搗鑛機は始政五週年記念共進會に於て銀牌賞狀三を授與され朝鮮唯一の光榮を得たる最初の受賞者なり 京城南大門通五 電話一〇四番 中根商會

七

二宮亮吉妻房子儀豫而歸鄉療養中の處養生不相叶本月十七日午後五時永眠仕り候間此段生前辱知諸君に謹告仕候也
追而葬儀は本月二十五日郷里愛媛縣周桑郡志川村中川に於て施行可仕候
五月十八日
男 二宮道成
親戚總代 野田正代
友人總代 伊藤德隆

千生瓢 (217)

須藤南翠作　筒井年峰畫

長湫 (十八)

其の追撃の急であつた事は、剛勇無双の榊原小平太康政さへ、長刀を取り直す隙間もなく、後ざまに薙ぎ拂つて後走し、大須賀五郎左衛門康高の如きは、槍を持つて拂ひ退きに退いたといふので、其の一班は窺はれるのであらう。

かゝる中に本多彦三郎康重は、鹿毛の馬の太くたくましきに打跨り、十文字の槍を打振つて、唯だ一騎馬首を返し、潮の如く追ひ來る敵に、無二無三に突き込んだ。この良き敵を迎へて、何かは猶豫をしようぞ。堀が家に名ある侍共、我討ち取つて恩賞に與らうと、槍を揃へて突き懸る。本田が郎等、主が大事の軍するを、他所に見る者けない、返し合はせて槍を合せ、落ち合ふ水の岩に激して、こゝに渦を巻くが如く、巴となり卍となり、揉みに揉んで戰かふ勢ひ、何れも義を知り、名を重ずる英雄の、死を爭ふ血戰であつた。康重は散々に戰つて、槍は既に突き折つた。太刀拔き翳して切り廻り、縱さま横さまに奮闘する。其の太刀さへも目貫を打折り、大手を廣げて敵を組み伏せ、其首は搔いたものゝ、究竟の郎等三十六人、枕を並べて討死し、其身もまた大小七箇所の創瘢を被つて、殆ど其場に切り死すべき運命に陷つたのであつた。

池田勝入齋父子、森武藏守返し合せて、崩れ立つた東國勢に打ちかゝると見て、三好が手の者、其處此處より取つて返し、一所になつて戰ふので、其の勢ひの猛烈なる事、燎原の火もかくやと想はるゝばかりであつたが、機を見るに敏捷な堀久太郎秀政は、長追は無益であらう、はや引揚げよと、採貝を吹かするに、其勢忽ち引返して、大將の旗下に集まつたので、之を引纏めて元の陣地に引揚げ、備を堅固に立てさせたまゝ、朝よりの合戰に勞れたる人馬を、姑らく休養させてゐた。

之に反して池田信輝入道勝入齋、同く紀伊守之助、同く古新輝政、並に森武藏守長可は、唯さへ勝誇つた處に、三好長谷川の敗兵等を收めて、其勢ひ强大となつたので、唯短兵急に追撃して、一人も漏すまじと猛り立ち、備へを亂して追つ駈けた。然る時に側面の山陰に於て、鬨と揚ぐる鯨波の聲が聞れた。敵か、味方か、不審しと思ふ處に、富士が根の山際より、更に思ひ寄らなかつた日の丸金五本骨の馬標、朝日の光りに照り輝きて、威武堂々として出でたのであつた。

勝入齋かくと見て、

「やあ、家康自身出馬致いたぞ、望む相手ぢや「急度備へを立て直せや」と、鞍を敲いて下知をする。

池田が家の侍大將共、馬を八方に馳せ廻して、亂れ足の味方を制し、陣を立てんと焦燥れども、勝誇つた驕兵の習ひとて、容易に號令行はれず、心々に振舞ふ處へ、赤旗赤具足の一隊、猛然として山上に立ち現はれ、鐵砲烈しく打ちかけ／＼、嵐の如く突き下る。是れぞ甲州名代の英保山縣三郎兵衞昌景の赤備へを模したる、井伊萬千代直政の一隊である。

德川參議家康は、榊原以下の諸將に、五千餘人の勢を付けて、未の刻に小牧山を發させ、自身は池田勝入齋の瑞龍寺を發した亥の刻に後るゝこと一時(二時間)即ち八日の夜正子の刻に馬を出して、九日の丑の刻(午前二時)を過る頃、一里三十町を進んだ時、遙に岩崎の砲聲を耳にした。

「池田が先手、もはや岩崎を攻めかかつたと相見ゆる。次郎助(丹羽氏重)はまだ年少ながら、義に勇む勘助が舍弟、定めて大敵に驅け向つて、天晴討死を遂ぐるであらう。不便な者ぢや」

家康は少年の武者振を想ひやつて流石に涕涙を催した。其より猶も軍を進める程に、首夏の夜、東の方よりほの／＼と白み初めて、勝川の甲塚に達した時は、夜は全く明放れて、霧の間に東天の紅ゐをさへ認め得た。

此時榊原康政の使者馳せ來つて、先陣既に三好秀次の本陣を切り崩した事を注進に及んだ。

皮膚科 徽毒科

皮膚病 黴毒病 淋病 膀胱病 生殖器病 機能障碍

入院隨意(診察夜九時迄) 日曜祭日午後二時迄

京城明治町二丁目(元一丁目) 佐藤醫院 (電話一一七三番)

新刊紹介

▲ゼ、ジヤパン、タイムス、スチユーデント、エヂシヨン(五の一九) 十二錢東京市麴町區內幸町一の四ジヤパン、タイムス、學生號出版所

▲經世(九九) 十三錢東京市芝區田村町六其社

▲朝鮮鐵道青年(六の五) 世界に於ける吾人の交友哲學博士タゴール氏より那服鐵道新聞三木鐵道局參事無言電車の發明其外(會員組織龍山鐵道構內其會)

▲新少年(六月號) 軍國少年の意氣に投ずる記事多し一二を擧ぐれば冒險小說大陸探怪奇小說魔塔の祕密東郷元帥の幼年時代なつた私の經驗其他(十二錢東京市神田區錦町平和出版社)

新刊書御案内

書名	著者	定價
住宅建築	建築世界	二五〇
我家の顧門		七五
滿洲概要	吉武源五郎	一〇〇
日蓮聖人之遺訓	遺訓研究會	五五
禪學入門	秋野孝道	七五
向上論	尾崎行雄	六〇
修養一ケ年		五五
夜船閑話氷釋	白隱禪師	四〇
修養青年偉人の言行	西郷哲人	二五
トルストイ民話集	深木弘	一〇
ショウペンハウエルの研究	征矢野晃雄	一八〇
ドコまでも	野依秀一	一〇〇
斬人斬馬	野依秀一	一二〇
ABCより	小田步江	三五
英文解釋自在		四〇
幾何學新講義		三〇
帝都郊外の史蹟	安藤佑專	五〇
舞扇		九〇
水彩畫家		五〇
箕輪心中	岡本綺堂	四〇
みだれ髮	小栗風葉	四〇
尼になる迄	小林榮子	二八
實用ペン習字帖		二〇

京城本町 大阪屋號書店 電話二〇八六 振替京城二五七三番

▲▲男女衛生サック

品質最優秀軟柔にして本品を使用せば彼の恐るべき花柳病の傳染を絶對に豫防し得る衛生上最必要品なり

▲男用拾貳個四拾五錢廿四個八拾錢五拾個壹圓五拾錢百個貳圓八拾錢

▲女用壹個七拾錢特別上製壹圓(郵券代用必ず貳拾錢增し)著金即刻送品

東京北品川町百五拾四番地 日新館製劑部 電話芝七七八番 振替東京貳貳貳番

ミツワ石鹼

○ミツワ石鹼(みつわせつけん)

純正の石鹼は爾虫箇保兒に透明に溶解し、遊離脂肪なきが故に混濁する事なく混合物なきが故に些の沈渣をも殘留せず、更にフエーノルフタレインを以て、仔細に遊離の亞爾加里を驗するも、毫末の反應を呈する事なき、是を化學上の純石鹼なりとす。

○ミツワ石鹼は化學上の純石鹼たるのみならず、なほ左の性狀を具備す

一、原料を精選し、脂肪に香料に、苟も刺戟を感ずべき虞れあるものを用ひず

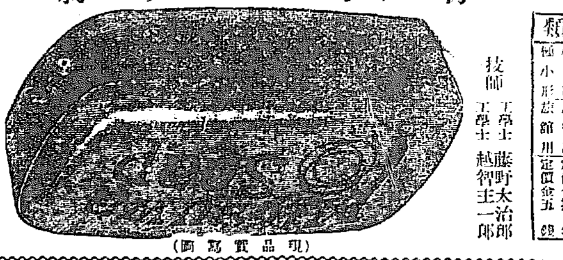
一、温雅の芳香を有す

一、細き泡沫を生じ適度の溶解性を備へて、能く水にも溶解し而かも浴室に用ひて、半途に溶け崩るゝが如き憂ひなし

故に一般の家庭に於ける、浴室、化粧用として、衛生に適し、經濟に合する、理想的實用石鹼なり

種類		
大形	家庭用	定價金貳拾錢
中形	携帶用	定價金拾參錢
小形	旅行用	定價金拾錢
極小形	旅館用	定價金五錢

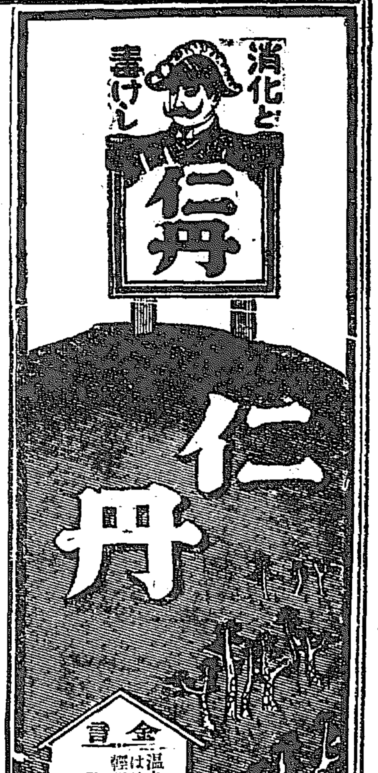
技師 工學士 藤野太治郎 工學士 越智主一郎



(現品實寫圖)

肝油ドロップス ○ ミツワ家庭藥

東京市日本橋區橘町四丁目 振替東京七一〇番 丸見屋商店 電話特長浪花 四四八番 四四九番 四五〇番



大阪商船仁川出帆

○外航所間航路(何等航路を除く)は五分引を以て品物切符發賣仕候

○群山、木浦、釜山、關門、神戶大阪行
×天草丸 五月三十日 午後五時
×油頭丸 五月二十日
○須磨丸 五月廿六日 出帆

○木浦、釜山、嚴原、鄕の浦、長崎行
×信濃川丸 五月廿九日
○信濃川丸 六月十六日 後二時出

○鎭南浦、大連行
×信濃川丸 五月廿四日
×信濃川丸 六月十一日 後二時出

○大連直行
×福州丸 五月廿三日
△潮州丸 六月五日 正午出帆

○木浦、釜山、關門、神戶、大阪行
×安東丸 五月廿四日 後五時出

○群山、釜山、橫濱行
△潮州丸 五月二十日
×福州丸 五月廿九日 後二時出

○淸津、浦潮行(元山出帆)
▲印八城津、西湖津ニ寄港浦潮不寄港
宮島丸 五月 日
平安丸 五月廿五日 後二時出

○上海、基隆、打狗行(大連出帆)
▲城津丸 五月廿六日
基隆丸 六月六日 後四時出

御注意
○朝鮮鐵道及び南滿洲鐵道會社との船車連絡切符發賣仕候
○御乘船客は本船出帆約一時間前御乘船可致候
○×印は一等客御斷り△印は船客御斷り

切符發賣所 大阪商船會社仁川支店 電話二〇番・二一番 / 內國通運會社支店 電話七八番
京城切符發賣所
▲中國四國沿岸各港行船客に對し當分門司迄一割引を以て連絡乘船切符發賣仕候

日本郵船仁川出帆

○大連、太沽、牛莊行
相模丸 六月四日 正午出帆
高砂丸 六月十二日 正午出帆
三河丸 五月廿三日 正午出帆

仁川海岸町一丁目 電話十二番 堀回漕部

大邱浦項間自動車時間

大塚農場自動車部 大邱出張所 電話一一七番

上り 浦項發 安康同 慶州同 阿火同 永川同 河陽同 大邱著 [illegible]
下り 大邱發 河陽同 永川同 阿火同 慶州同 安康同 浦項著 [illegible]

浦項電話七番

朝鮮郵船出帆

○全羅丸 五月廿二日
○京畿丸 六月四日
○黃海丸 五月 日
○咸鏡丸 五月廿六日
門司より釜山各港寄港雄基間航路 釜山發

○穩城丸 五月廿三日
○昌平丸 五月廿二日
○鏡城丸 五月 日
元山より各港經由雄基行 元山發

○忠淸丸 五月三十日
○平壤丸 五月廿二日
城津淸津浦潮行復航釜山より門司又は長崎行 元山發

○永興丸 每月廿八日 北久味五里浦行 元山發

○盈德丸 五月廿三日 甘浦九龍浦浦項各港經由鬱島行 釜山發

○江陵丸 ○蔚陽丸 每日 長生浦方魚津寄港 釜山浦項發

○三浦丸 五月 日 長承浦麗水巨文島濟州島各一港 釜山發

○海州丸 ○統營丸 ○濟江丸 ○慶賓丸 每日 各港經由麗水行(三日目一回水南行) 釜山發

○順天丸 三日目每ニ 各港經由麗水行 麗水より釜山行に接續 木浦發

○慶興丸 五月 日 各港經由濟州島行西廻 木浦發

○公州丸 五月二十日 南多島海列島行(月三回) 木浦發

○慶興丸 五月廿二日 各港經由濟州島行東廻 木浦發

○宗信丸 五月二十日 扶州郡各港寄港德積又は白翎島行 仁川發

○江原丸 五月 日 南島大津芝罘行 仁川發

○麗水丸 五月廿二日 ○晉州丸 五月廿六日 各港經由木浦行 仁川發

○錦江丸 ○南陽丸 每日午前 江華島禮成島海州行 仁川發

○平安丸 五月廿七日 五月廿一日 往航大川山木浦門司若松行 復航門司木浦群山行 群山發 若松發

本社 電話長一九五二番二一三一番 京城南大門驛前 京城商客取次店松原運送店(電話長一七〇番)

尼崎汽船仁川出帆

群山、木浦、釜山、下關、神戶、大阪行
○大正丸 五月廿六日 後四時出帆
○大有丸 五月二十日 後四時出帆
○神代丸 五月二十日 後四時出帆
○秀吉丸 五月廿三日 後四時出帆
○君が代丸 五月 日 後五時出帆

仁川海岸通三丁目 電話五十九番 高杉回漕部

汽船釜山出帆廣告

○門司、神戶、大阪行 立神丸 五月廿三日 後五時出帆
○元山、淸津、浦鹽行 立神丸 五月 日 後十時出帆
○門司、神戶、大阪行 小倉丸 五月 日 後五時出帆
○元山、城津、浦鹽行 小倉丸 五月 日 後十時出帆
○元山、西湖、新浦、城津、淸津行 第三翠丸 五月 日 後六時出帆
○門司、宇品、神戶、大阪行 第三翠丸 五月 日 後六時出帆
○天眞丸 每月二日九日十四日廿一日廿六日 午後十時出帆 佳須奈、巖原、壹岐、博多行

本船取扱店 釜山港埋立新町 大池回漕部

共同汽船仁川出帆

阿波國共同汽船

○芝罘、大連行(關東都督府命令船) 第十共同丸 五月 日入港 五月 日前九時出
朝鮮鐵道主要驛にて荷客連絡輸送御取扱仕候 大連にては青島行定期船へ接續荷客共直航船と同樣運賃にて通し輸送御取扱可仕候

○城津、淸津、浦鹽行(元山出帆) 第一阪鶴丸 月 日入港 月 日後九時出

○西湖津沿岸各港を經て雄基行 第三共同丸 (元山出帆) 月 日入港 月 日前八時出

仁川本町一丁目(電話一〇八番) 阿波國共同汽船株式會社
仁川代理店 山下回漕部
元山代理店 春日町(電話二四四七番) 田口回漕部
京城取次店 南大門(電話二六八・二〇一七) 河村運送店

寫眞

寫眞出張撮影 寫眞銅版、亞鉛凸版

熟練せる技術を以て最も廉價に迅速と可成親切を旨とし御需に應じ候

京城日報社 寫眞製版部

●各地に僞ドラッグあり御注意●

百圓進呈 りん病 ばいどく 請合藥 特製三圓 並製二圓 特製貳拾錢

大阪ドラッグ商會

麻病藥主藥は治癩劑とし梅毒藥主藥は驅梅內服藥とし醫學上最有効と確定し東京京都九州帝國醫科大學病院等に於て賞揚配劑せらるゝある高貴藥なる事を保證す若し前述の證言に違へる事を發見せらるゝ時は分析料として金百圓進呈

●あらゆる治療を講ずるも効なき患者兎に角一度相談あれ

にせ物に注意 商會の隆盛を羨み東京京城大連青島其他到る處僞物を賣る奸商あり商會製劑を御購求の諸君は大阪有田鑑製を御買取可被下候

●詳細は本月三日の京城日報御覽

京城南大門外 大阪グラッド商會 販賣許可ス藥店ニ

商況

大阪期米特電(十九日)

▲後場不勢

▲依然保合